

令和 5（2023）年度 学校評価報告書

令和 6（2024）年 8 月

成城学園学校評価委員会

令和 5（2023）年度学校評価報告について

学園長 戸部順一

成城学園では、平成 19 年の学校教育法改正によって高等学校以下の各学校（幼稚園を含む）に対し、学校評価の実施が義務づけられましたことを受け、平成 20 年度から平成 26 年度に至る 7 年間、毎年为学校評価を行ってまいりました。ただ、平成 29 年度の実施を最後に、令和 4 年までの 5 年間、学園としての全体的な取り組みは休止状態にありました。ある程度の期間をあけて評価した方が各校の抱える問題点が鮮明になるとの考えに加え、コロナ禍という異常事態が勃発した結果の中断でした。その後、令和 4（2022）年度に学校評価活動が再開され、今般、令和 5（2023）年度版の学校評価報告をお届けすることになりました。昨年と同様に、各校の学校評価をまとめた冊子の配布は行わず、ホームページ上での公表—評価報告のより広範な周知を目指したためです—となります。評価方法に関しては昨年度の評価方法を踏襲し、特に大きな変更はありません。そこで、学校評価の趣旨、評価を担う組織、評価の方法等について簡単に説明させていただき、評価報告の理解に役立てていただければと思っている次第です。

1. 学校評価の趣旨：各学校は教育活動及びその他の学校運営について、学校目標¹を設定し、その達成状況や達成に係る取り組みについて自己評価²をし、その結果を公表することで、持続的な改善を図ることを目的とする活動のこと。

2. 学校評価を担う組織及び評価の方法：学校評価の組織としては、各学校が行う学校評価のためのガイドラインの策定及び評価結果の取りまとめを行う学校評価委員会（学園長を委員長として、法人事務局長、中学校高等学校校長、初等学校校長、幼稚園園長及び各学校から選任された者 1 名を委員とする組織）があり、そのもとに、学校評価委員会の定めたガイドラインに則って学校評価を実施する自己評価実施委員会（学校長を委員長とし、学校長が指名した者を委員とする組織）が各学校に置かれています。自己評価実施委員会は評価判断の材料である保護者アンケート³の実施とアンケート結果の分析による自己評価を行います。

この自己評価実施委員会による自己評価の結果と改善策への取り組み状況をチェックす

¹ 各学校において単年度ごとに設定されるもので、各学校が策定した中期計画の当該年度の事業計画のうちの重点事項及び保護者アンケートの意見・要望のうち、重要と判断され得る事項等の改善策を内容とします。

² 各学校長のリーダーシップを執り、当該学校の全教職員の参加のもとで、学校目標の達成状況や達成に係る取り組みの適正性について行う評価のこと。

³ 自己評価を行う上で、保護者を対象として行われる、学校目標に関するアンケート調査のこと。

る組織として、学校関係者評価委員会（学校長、接続学校⁴から選任された者、父母の会部会長、学校長が指名した保護者を委員とする組織。委員会の委員長は学校長を除いた委員たちの中から、互選によって選ばれることになっています）が各学校に置かれています。学校関係者評価委員会の特徴は、教員と保護者から選出された委員の皆さんから構成されていることです。この組織構成は自己評価実施委員会による自己評価に対し、保護者側からの検証を可能にしており、教員側の評価に保護者側の再評価が併記されることになっています。

学校評価報告は、自己評価実施委員会による保護者アンケートの結果、保護者アンケートに基づく自己評価、それに加えて、学校関係者評価委員会の評価報告書を各校ごとにまとめた体裁をとっています。評価の尺度として利用させていただいている保護者アンケートは、学園各校のいい点、改善してほしい点を浮き彫りにしてくれます。例えば、学校の施設、学校行事に関する項目では、各校とも高い評価をいただき、また人と人とのつながり、友人関係の構築－充実した学校生活を過ごす上で、きわめて重要な要素です－という点においても、高評価をいただいている一方で、上位学校に関する情報＝進級に関する情報が不十分であるとの指摘を受けました。情報量が実際に少ないのか、情報発信の仕方に問題があるのか、議論の必要性を感じました。良い点は伸ばし、問題点は、その解消に努める…。当たり前のことをすることには、当たり前すぎるゆえに、それを怠る危険性が潜んでいます。そんなことを私たちに意識させるのも評価報告の效能かと思っております。学校評価報告は教職員と保護者の協働によって作り上げられます。勿論、この活動の目的は評価報告の作成に留まるものではなく、私たちがその評価を真摯に受け止め、よりよい学校作りに活かすことにあります。「この評価を初等学校、学園が活用してくれることを切に希望する。…学校評価アンケートについて明確なアクションを示して欲しい」とのご意見を決して疎かにせぬこととお誓いし、令和5年度学校報告の序とさせていただきます。

⁴ 成城学園には幼稚園、初等学校、中学校高等学校、大学がありますが、例えば初等学校の接続学校と言え、初等学校以外の各学校、すなわち幼稚園、中学校高等学校を指すことになります。

令和5（2023）年度 学校評価アンケート 中学校高等学校 自己評価について

●はじめに

今年度5月にコロナ禍における制限がなくなったとは言え、一つ一つが単純に元に戻すという発想ではうまくいかない状況になっている。とくに、ここ数年で学校を取り巻く状況は大きく変わっており、たとえば、ICT 機器が活用される場面が格段に増え、必要不可欠な道具となった。本校でも、探究的な学習、新しい評価方法など、コロナ禍前からの取り組みが急加速されたような形となっている。中でも国際理解教育に関する取り組みは、深みを持ち始めたと感じている。一方で、昨年度の結果で示された継続的な課題については、より一層の努力が求められており、今回の学校評価アンケートを通して、あらためて保護者の方々の理解と協力を得ながら教育活動のさらなる向上を目指していきたいと考えている。

●学校目標（第二次中期計画）

I.教育活動

（A）国際教育

（a）語学教育

- 1）4技能をバランス良く伸ばすことを目的に、中2修了時に英検3級、中3修了時に英検準2級の取得を目指す。また、高2修了時に CEFR-J B1.2 の英語力を身につけ、英検2級全員取得を目指す。
- 2）英語で積極的にコミュニケーションをとる活動を充実させ、英語運用能力を身につける。また、新しい大学入試にも対応できる英語力を身につける。

（b）国際交流

本校独自の留学プログラムを充実させ、帰国後もオンライン等を活用し、外国語の授業に限定せず、総合的な学習の時間や行事等を通じて、交流を主体的な学びにつなげる。

（B）理数系教育

（a）論理的思考力

課題を発見し解決する能力を育成するために、日常的な授業に加え、次の施策を展開する。
[中学]宿泊行事（中学3年）等での PBL を主体とした取り組み。
[高校]自由研究での「SDGs 講座」開設。

これらの中で、事前学習、企画力の育成、Zoom 等での交流、現地調査と触れ合い、事後発表、継続的な交流を行う。

（b）デジタルスキル

- 1）協働学習の場を拡張することを目的として、教科、特別活動で生徒にデジタル機器を活用させる。その際、個々の生徒の活動の成果を蓄積すること（ポートフォリオの作成）や広く発信でき

るようなデジタルスキルの定着にも重点を置く。

2) 学校行事等、機会あるごとに生徒を主体とした Google Forms でのアンケート調査を行い、それらを分析しつつ、改善につなげる。

3) 情報モラル教育を拡充する。

(c) 科学教育・環境教育

1) 理系の専門の研究者を講師に招いての「サイエンス教室」の継続実施・企画内容の充実、さらに新設された「恐竜・化石ギャラリー」の活用等を通して、生徒の科学に対する興味関心を高める。

2) ICT を利用した数学教育の充実、理科実験教室を活用したカリキュラムの構築、理数コース（高2、3）向けカリキュラムの充実と、新しい課外教室を企画・設置する。

(C) 情操・教養教育

1) 生徒の学びの集大成となる発表や演奏会等、各教科における表現活動の場の充実。

2) デジタルスキルを活用した文化部活動における発表や発信の機会を設ける。

3) 生徒が主体的に関わり、各々の心身の成長に結びつくように、行事や部活動の運営方法を見直す。

II. 研究活動

1) 自立的な学習者を育成するための教員の授業力・指導力の向上を目指す。

2) 社会の変化を見据えた教育のあり方を常に模索し形にできるよう、研究会・研修会の充実を図る。

III. 社会連携活動

ボランティア活動等を通じた、地域や他校との連携の拡大。

IV. 教育環境整備

1) PBL（課題解決学習）や Active Learning を積極的に取り入れるための特別教室の整備。（グループワークをかなえるための机、椅子等）

2) 教育 ICT の導入における「SAMR」モデルの「Modification（変容）」「Redefinition（再定義）」のレベルを充実させるための、アプリケーション等周辺環境の整備。

●学校評価アンケート

I 実施期間：2024 年 1 月 16 日～1 月 29 日

II 対象：中学校高等学校 全保護者 「ウェブでお知らせ」にて配信

III アンケート項目（中学校高等学校共通）

下の Q1～Q21 について、調査対象者が以下の 4 段階で回答する。

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない

集計上、①を 4 点 ②を 3 点 ③を 2 点 ④を 1 点として平均値を求めた。

- Q1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。
- Q2 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。
- Q3 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。
- Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。
- Q5 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口(養護教諭、カウンセラー等)がある。
- Q6 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。
- Q7 特色ある教育活動が行われている。
- Q8 学校は、日々の教育活動で ICT 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。
- Q9 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。
- Q10 本学園の良さを学外の人に伝えたい。
- Q11 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。
- Q12 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。
- Q13 お子さんは文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校(園)行事に積極的に参加している。
- Q14 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。
- Q15 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。
- Q16 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。
- Q17 「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。
- Q18 学校では、「英検」に関して、中 3 までに準 2 級、高 2 までに 2 級を取得することに向けての学習活動が行われている。
- Q19 学校は、英語 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。
- Q20 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。

- Q21 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。
- Q22 お子さんが部活動に参加している方へ:学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合は、無回答としてください)
- Q23 学校をより良くするためのご提言があれば、ご記入ください。

IV 集計結果について

1) 回答数（カッコ内は在籍者数）

高 1	177	(278)	高 2	159	(278)	高 3	139	(273)
中 1	179	(244)	中 2	144	(236)	中 3	151	(241)
所属学年不明※ 8								
							全体	957 (1550)

※学年とクラス名が一致しない回答は、所属学年不明とし、除外して集計した。

昨年度の回答数が 1227 (1554) であったことと比べると、回答数の減少が顕著であった。

2) 集計結果

No.	質 問 項 目	高全	高1	高2	高3	中全	中1	中2	中3
Q1	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。	2.86	2.85	2.91	2.83	2.82	2.85	2.66	2.92
Q2	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.54	3.51	3.59	3.52	3.42	3.40	3.37	3.48
Q3	学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。	3.20	3.24	3.13	3.22	3.19	3.12	3.08	3.38
Q4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.47	3.50	3.40	3.53	3.50	3.49	3.49	3.54
Q5	お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口(養護教諭、カウンセラー等)がある。	3.01	3.01	2.97	3.06	2.93	2.87	2.87	3.08
Q6	感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	3.34	3.35	3.30	3.36	3.21	3.17	3.10	3.34
Q7	特色ある教育活動が行われている。	3.23	3.24	3.17	3.29	3.23	3.22	3.17	3.30
Q8	学校は、日々の教育活動でICT機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。	3.12	3.16	3.13	3.06	2.98	3.03	2.90	2.99
Q9	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.62	3.70	3.53	3.61	3.63	3.66	3.59	3.64
Q10	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.37	3.47	3.33	3.30	3.24	3.26	3.17	3.29
Q11	学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。	3.21	3.27	3.16	3.18	3.14	3.08	3.05	3.29

No.	質 問 項 目	高全	高1	高2	高3	中全	中1	中2	中3
Q12	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。	2.82	2.81	2.82	2.81	2.62	2.61	2.47	2.77
Q13	お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校(園)行事に積極的に参加している。	3.65	3.65	3.63	3.68	3.58	3.63	3.51	3.58
Q14	上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。	3.22	3.24	3.24	3.16	2.67	2.53	2.60	2.91
Q15	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。	3.21	3.23	3.26	3.12	2.98	2.93	2.88	3.14
Q16	学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。	3.08	3.10	3.12	3.03	2.91	2.83	2.81	3.09
Q17	「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.93	2.94	2.99	2.83	2.70	2.61	2.59	2.92
Q18	学校では、「英検」に関して、中3までに準2級、高2までに2級を取得することに向けての学習活動が行われている。	3.05	3.11	3.13	2.88	2.91	2.83	2.96	2.95
Q19	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.88	2.90	2.92	2.78	2.86	2.91	2.80	2.87
Q20	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.69	2.72	2.74	2.61	2.65	2.70	2.53	2.68
Q21	学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。	3.44	3.44	3.44	3.43	3.39	3.35	3.35	3.48
Q22	お子さんが部活動に参加している方へ:学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合は、無回答としてください)	3.37	3.35	3.40	3.36	3.35	3.38	3.34	3.31

3) 集計結果の分析

3-1) 相対的に、評価が高い設問について（上位5項目）

Q9 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

（高）3.62 （中）3.63

Q13 お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校(園)行事に積極的に参加している。 （高）3.65 （中）3.58

Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

（高）3.47 （中）3.5

Q2 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。

（高）3.54 （中）3.42

Q21 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。 （高）3.44 （中）3.39

様々な学校行事に関連した項目について高い評価が得られたことは、すなわち、保護者の方々が学校の教育活動をととても熱心に見ていただいたということにつながると感じている。この結果だけでも、あたたかい支援の目が注がれていることを強く感じるものとなった。日々、教職員が多くエネルギーを割いて生徒の自主性を育てている活動についても、その大きな方向性は間違っていないものと受け取りたい。さらに、この点については、ホームページ等における情報提供に関する評価も含めて、学校への関心の高さを裏付けるものだと考えられる。

一方、友達関係についても、比較的高い評価を得ていることは、非常にうれしいことである。しかし、数値に現れない生徒間のトラブルの解決に、教員が、多くの時間をとられている現状もあり、より良い友達関係が育まれるよう次年度以降の対応にも一層の工夫が必要だと思われる。

なお、学校の施設・設備に関する評価についても、実際に学校を訪れ、そこで活動する生徒たちの姿を見ていただいているからこそその高評価だと考える。こうした施設設備を生かしていく授業や探究活動のさらなる工夫が必要となる。

3-2) 相対的に評価が低い設問について（下位5項目）

Q20 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 （高）2.69 （中）2.65

Q12 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 （高）2.82 （中）2.62

Q17 「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 （高）2.93 （中）2.70

Q1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。

(高) 2.86 (中) 2.82

Q19 学校は、英語 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。(高) 2.88 (中) 2.86

下位 5 項目が、どれも学習や教育活動に関する内容となっていることは、大きな問題であると考えられる。とくに、Q20 理数系教育と Q19 英語教育に関する項目は、中期事業計画の中でも重点的に扱われているものであり、これまで時間をかけて取り組んできたものであり、過去の実績を見直して努力してきた部分も多いが、今回も評価が低い。さらに、これらに加えて、Q1 の意欲を引き出す授業についても、評価が低い項目となっている。これらは、引き続き大きな問題として受け止め改善を続けていかなければならないと考えている。該当科目はもちろんのこと、教員全員で授業のあり方について考える時間を作り、改善を図りたいと考えている。また、進路学習なども含めた探究的な学習についても、いくつかの新規の取り組みを始めているが、なかなか伝わりにくいものが多い。いずれにしろ、学校の取り組みと生徒や保護者の方のニーズをなるべく摺り合わせる形で改善していきたい。

3-3) 中学校と高等学校で、評価に差がある設問について (中学で、相対的に評価値が低いもの)

Q14 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。

(高) 3.22 (中) 2.67 →ポイント差 0.55 高校が高い

中校と高校において、上記 Q14 の項目については差が生じた。とくに、中学 1 年生が 2.53、2 年では 2.60 と評価が低い。一方、中学 3 年においては 2.91 とやや上昇し、高校では 3.2 程度の評価を得ている。本校中学生のほとんどが本校の高校へ進学する状況を考えたとき、成城学園高等学校を「選ぶ」という意識を持たせることが難しいのは、やや仕方ない面もあるが、やはり、他の高校との違いなどをきちんと説明する機会を作っていかなければならないと考えられる。なお、この Q14 以外では、比較的、差が大きかったのは、以下の 3 項目である。

Q15 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。

(高) 3.21 (中) 2.98 →ポイント差 0.23 高校が高い

Q17 「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。(高) 2.93 (中) 2.70 →ポイント差 0.23 高校が高い

Q12 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。(高) 2.82 (中) 2.62 →ポイント差 0.20 高校が高い

これらの項目についても、いずれも高校の方が、ポイントがやや高くなっている。
Q15 の情報モラルについては、高校における「情報」の授業で、さらに、進路については集中講義などにおけるキャリア教育などの内容が生徒を通じて保護者に届いている可能性がある。また、情報モラルや学習目標の設定などは学齢によって理解の度合いが異なるものであり、今回のアンケート結果でもその差が顕著に現れた。中学生に対してどのようなアプローチをしていくか、学校全体の課題として全教員と考えていきたい

3－4）各質問項目について

Q1 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。

(高) 2.86 (中) 2.82

この項目については、昨年度 (2.83) と同様の結果となっている。また、中学2年でやや低い値 (2.66) となっており、様々な面で難しい年齢になっていることとの関連もあると感じている。昨年度に引き続き、多くの生徒が成城大学へ進学する本校の状況において、学ぶ意欲を引き出す工夫については、たとえば、評価方法の見直しなども含めて考えていかなければならない。

Q2 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。 (高) 3.54 (中) 3.42

この項目については、昨年度 (3.52) と同様、高い評価が得られている。学年別でも、よい評価が得られており、全般的に学校生活の中で、良好な友人関係を築けていると考えられる。ただし、その一方で、生徒間のトラブルがないわけではなく、保健室登校等が続いている生徒もいる。全体の傾向と合わせて、こうした状況についてもきちんと対応していきたい。

Q3 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。 (高) 3.20 (中) 3.19

この項目は昨年度 (2.99) に比べて、評価が上がっている。コロナ禍での制限がなくなり、学校内での取り組みを直接見ていただける機会が増えたことが要因だと思われるが、より一層、学校生活の様子を直に見ていただける機会を増やし、その状況をフィードバックしていただけるようにしていきたい。

Q4 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

(高) 3.47 (中) 3.50

これも Q3 と同様、昨年度 (3.31) よりも評価が上がっている。学校行事は、保護者に広く生徒たちの様子を見ていただく機会であり、飛翔祭 (体育祭)、文化祭といった大きな行事に限らず、大小さまざまな形での発表会などの機会も増えている。こうした活動についても熱心に見ていただける状況もあり、それぞれの改善点を考える上での力としていきたい。

Q5 お子さんの心身の健康について、気軽に相談できる窓口(養護教諭、カウンセラー等)がある。 (高) 3.01 (中) 2.93

この項目は昨年度 (3.07) とほぼ同じ数値となった。昨年度まではコロナ禍での臨時的な対応が目立っており、教員・養護教諭に対して相談できる機会に制限がかかっていた。これがなくなった現在、窓口としての保健室にはとても多くの相談がよせられており、制度自体の拡充も必要となっている。

Q6 感染症対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。 (高) 3.34 (中) 3.21

朝の健康チェック (検温チェック)、昼食指導等がなくなった状況から、比較的余裕が生まれていた状況ではあるが、その一方で、インフルエンザ等による学級閉鎖は今年度もあった。あらためて、宿泊行事などについてはコロナ禍の経験を生かしていけるようにしていきたい。

Q7 特色ある教育活動が行われている。 (高) 3.23 (中) 3.23

Q3、Q4 と関連して、この項目も昨年度 (3.05) よりも高い評価が得られている。その一方で、Q1 などと関連して、普段の授業の中に、本校の特色を生かしたものがもっとあらわれてくると、それが学ぶ意欲を引き出すことにつながっていくものと期待できる。

Q8 学校は、日々の教育活動で ICT 機器を積極的に利用し、お子さんはそれらを活用している。 (高) 3.12 (中) 2.98

この ICT 機器の活用についての項目は、中学と高校で若干差がみられた。中学 2 年 (2.90) での評価が低く、高校 1 年 (3.16) での評価がやや高くなっている。生徒は、日常的に iPad を利用している者が多く、かつ、表現力の豊かさを見る場面も少なくなかった。とくに、高校生がプレゼンに活用する場面では目を見張るものもあった。次年度以降の新高校 1 年でのノート P C 利活用に関連して、より良い工夫と変化が見られるようにしていきたいと考えている。

Q9 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。 (高) 3.62 (中) 3.63

この項目は、全項目の中で最も高い評価を得ている。現在の中高校舎の利用が始まって時間が経過してきた中で、施設設備の利用については、継続的な工夫が行われている。また、コロナ禍での使用に制限が加わっていた場所についても、元に戻り、生徒の活動や交流も戻っていることから、現状に工夫を加えながら継続的に有効利用を考えていきたい。

Q10 本学園の良さを学外の人に伝えたい。 (高) 3.37 (中) 3.24

この項目についても、昨年度 (3.29) と同様の結果が得られた。また、高校の方がややポイントが高くなっていた。今後、より多くの方に本校の良さをわかっていただく機会を増やしていく努力と、これを伝えていく機会を、より多く持てるようにしていきたいと考えている。

Q11 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。 (高) 3.21 (中) 3.14

例年、保護者の皆様には非常に大きなご支援とご協力をいただいている。なかなか個別の声一つ一つに應えることは難しく、多くのあたたかい気持ちが伝わってくる活動に触れるたびに感謝している。引き続き、連携を深めていけるよう努力していく。

Q12 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。 (高) 2.82 (中) 2.62

各教科において、さまざまなレベルでの学習目標を、各生徒に示すことが不足していることがうかがえる。定期テストを目標とするのではなく、身につけてほしい資質・能力や態度について授業担当者は明らかにしていくことが、より求められている。

Q13 お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校(園)行事に積極的に参加している。 (高) 3.65 (中) 3.58

この項目も高い評価を得ている。Q4とは視点を変えて、生徒(子)が積極的に参加しているかどうかを聞いたものだが、行事に関する本校の取り組みについて、家庭内での情報共有もできているものと受け止めたい。多くの生徒にとって充実した時間となっていることがうかがえる結果だが、かなり数は少ない(各学年数名)だが、「そうは思わない」という回答もあった。無記名式のアンケートなので限界はあるが、行事に参加できない生徒への対応も、あらためて考えていく必要があるともいえる。

Q14 上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。 (高) 3.22 (中) 2.67

昨年とアンケートの質問項目を若干変えて、「中学校→高等学校」という文言を入れたが、やはり中学での高校に関する情報提供が不足していることがわかる結果となった。とくに中1中2での評価が低いことから、高校に進学することに意味を、比較的早い段階で考えさせることも必要になるのではないかと考えられる。

Q15 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。 (高) 3.21 (中) 2.98

中学に比べて、高校でやや高い評価を得られた。昨年度よりもやや差が開いた状況ではあるが、高校生になると経験を重ね自覚が深まっていくものと思われる。また、高校での情報の授業で扱われている内容が効果をもたらしていることが考えられる。ガイドラインに関するルール違反から生じるトラブルはみられるが、丁寧な呼びかけを引き続き行っていくことが求められている。

Q16 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。 (高) 3.08 (中) 2.91

これについては、機会がある度に話をしているが、全体(学年、全学年)に対する話では浸透しにくい部分がある。たとえば、登下校のマナーなど何度言っても改善しない状況に頭を悩ませている。生徒の理解を深めていく指導を重ねていくことが必要だと考えていくしかないが、成果は上がりにくい。

Q17 「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。 (高) 2.93 (中) 2.70

高等学校の方がやや評価が高い結果となっているが、生徒が課題を見つけそれを解決していく探究的な教育活動については、中高ともに、さらに取り組みを深めていく必要がある。とくに、今年度から始まった高2ゼミナールなどの新しい取り組みが、他学年に波及効果を及ぼしていくことが、今後、期待される。

Q18 学校では、「英検」に関して、中3までに準2級、高2までに2級を取得することに向けての学習活動が行われている。 (高) 3.05 (中) 2.91

英検については、中学英語科、高等学校外国語科による地道な対応が続けて行われているが、資格の取得(率)については、飛躍的な改善は難しい。年2回の学校会場としての取り組みについても大きな負担がかかっている。より多くの生徒が、高2までに2級を取得することは、生徒の学習への目的意識を高めることと深く結びついており、各々の家庭での学習への取り組み強化をはからなければならない部分も大きい。

Q19 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。 (高) 2.88 (中) 2.86

いわゆる英語4技能の伸長についても、様々な工夫を行っているが、学習指導についての取り組みがなかなか評価されにくい。また目立った成果も見えにくい。一方で、英語を使うための場の提供は、粘り強く行われており、こうした場の活用が「勉強」という側面を持つが故に伝わりにくいという背景もある。英語技能は少人数教育で伸ばしたいところもあるが、なかなか実現が難しい。

Q20 学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。 (高) 2.69 (中) 2.65

昨年度に引き続き、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動については、厳しい見方となっている。高校2年次のコース選択においても、例年1クラスしか理数系コースを選ぶ生徒がいないことなど、比較的、数学を苦手とする生徒が多いこととも関連しているのかもしれないが、その一方で、多くの生徒が志望する成城大学への進学においても、数学の授業などで育成されていく論理的思考力は重要視されている。引き続き、苦手意識を乗り越えられるような工夫が必要であると考えられる。

Q21 学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。 (高) 3.44 (中) 3.39

学校行事だけでなく、部活動や種々の交流活動などの生徒が活躍している場面が多く伝えられるようになってきていることが、高い評価につながっているものと思われる。また、副校長のブログなども折々のできごとを交えて、学校の様子を伝える上で効果的に働いているものと考えられる。

Q22 お子さんが部活動に参加している方へ:学校では、クラブ活動が適切に運営されている。(参加されていない場合は、無回答としてください) (高) 3.37 (中) 3.35

部活動全般的に、参加している生徒については、高い評価が得られているものと思われる。ちなみに、部活動に参加していない生徒については無回答とすることを求めたので、回答数は高校では379名(全体475名)、中学では423名(全体474名)であった。回答者については、高校で約80%、中学で約89%の生徒が部活動に所属しているということになる。部活動の運営については、教員の働き方改革との関連も深く、今度、様々な見直しが必要となっているが、適切な運営を続けていけるようにしていきたい。

V まとめ

まず、全般的には、昨年度の結果と大きな違いはなく、引き続き学習指導全般について、力を入れていかなければならないと考えている。昨年度から、評価方法の検討を継続的に行っているが、なかなか学習活動全般に対して大きく改善する方向で働いていないことも考えられる。一方で、今年度実施した高校2年対象の「ゼミナール」は、担当した複数の教員に大きな労力をかけたが、1年間をかけて「探究」のプロセスを経験させていく上では、今後、より多くの教員が関わり、かつ、より低学年に波及効果をもたらすことが期待できると思う。

また、行事については、評価値が高い傾向が続いており、こういった日頃の教育活動への理解の深さと多大なるご支援について、あらためて深謝したい。より、生徒自身がそれぞれの「内なるもの」を伸ばしていけるよう努力していきたいと考えている。

学校関係者評価委員会 報告

2023年度学校評価集計結果ならびに自己評価報告書をもとに2024年6月3日、中学校高等学校学校関係者評価委員会を開催し、集計結果に関する報告ならびに意見交換を行った。その後、各委員からのご意見をGoogle forms等を利用して集約しここにまとめた。集約にあたり、その観点として「評価値が高い項目」「評価値が低い項目」「中学で、相対的に評価値が低い項目」といったことを中心として、それぞれの意見を集め、さらに、全体を通しての「意見・感想」と「今後への提言」をいただいた。

Q1 評価値が高い項目について

3-1

9	学校の施設・設備は学習環境において満足できる環境にある。	3.62	3.66	3.59	3.64	3.63	3.70	3.53	3.61	3.62
13	お子さんは、文化祭、運動会(体育祭)、校外学習などの学校(園)行事に積極的に参加している。	3.62	3.63	3.51	3.58	3.58	3.65	3.63	3.68	3.65
4	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.49	3.49	3.49	3.54	3.50	3.50	3.40	3.53	3.48
2	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.48	3.40	3.37	3.48	3.41	3.51	3.59	3.52	3.54
21	学校は、ホームページ、「ウェブでお知らせ」などを通じて、学校や生徒の活動について適切な情報提供を行っている。	3.41	3.35	3.35	3.48	3.39	3.44	3.44	3.43	3.44

A 行事を通して、子供たちがお互いや教員との親睦を深めているように思われる。引き続き継続をしてほしい。

B 施設に対する満足、学校行事に関する満足、よき友人関係への満足が高いということは、学校生活全般にわたり、満足している様子が見てとれます。また、学校はウェブでお知らせを活用して保護者と適切にコミュニケーションをとっている様子が見てとれます。

C Q9、Q21 に関しては学習環境、設備が整っていること、また情報提供が適切になされていることは大切なことでもあり、ありがたく、それらを実感できていることが評価に繋がっているのだと思います。また Q13、Q4、Q2 の評価が高いのは大変喜ばしく、成城学園らしいとも感じました。特に Q13 の学校行事についてはみんなで作り上げる、参加する、といったものはお互いを尊重しつつも一つのことを皆でやり遂げるという達成感、一体感が子どもの心身の成長を促しているのではないかと思います。

D 予想通りの評価値であると考えます。成城学園の良いイメージはまずこういったところに出てくるものと思われる。

E まず、教育活動を行う上での学習環境の土台となるハード面（施設や設備）の評価が高いのは何よりだと思いました。

校外学習を含めた学校行事に生徒が積極的に参加できているのも、学校で良い友達関係が築けているからこそであり、だから学校行事が生徒にとって良い発表の場にも成り得ているのであり、それは自分のありのままの姿をお互いに見せられる安心感の表れとも言えるのではないのでしょうか。

そういったことが、ホームページ・ウェブでお知らせ等を通して保護者に情報が伝わっているからでしょう、情報提供の点でも評価が高いのだと思われます。

F 昨年に続き、十分に設備が整った環境の中、明るく活発な学校生活（行事）と学校が提供する情報が保護者に伝わっていることを感じる。生徒の自発的な活動を尊重する校風は、今後も成城の強みとして大切にしていきたい。

一方で、集団生活や行事に馴染まないタイプの生徒も少なくない聞く。成城学園の特色を守りつつ、自分とは違う他者をも尊重し、互いに認め合う学校であってほしい。

Q2 評価値が低い項目について

3-2

19	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.86	2.91	2.80	2.87	2.85	2.90	2.92	2.78	2.87
1	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。	2.84	2.85	2.66	2.92	2.81	2.85	2.91	2.83	2.86
17	「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.81	2.61	2.59	2.92	2.69	2.94	2.99	2.83	2.93
12	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指すような教育活動が行われている。	2.71	2.61	2.47	2.77	2.61	2.81	2.82	2.81	2.82
20	学校では、数学、理科、情報等の科目において、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.66	2.70	2.53	2.68	2.63	2.72	2.74	2.61	2.69

A 学習への意欲が低いことが懸念される。中高一貫校とはいえ、外部の情報を子供たちにも理解させてほしい。

B これらの評価値は、「2＝あまりそう思わない」を付ける保護者がある程度いたということをやがわせる数字になっています。先生方が頑張っているのになぜこのような評価になるのかについて、検討が必要だと思います。保護者の回答の理由や背景について、理解することができればより良い改善策が生み出されるのではないのでしょうか。たとえば19番「学校は、英語4技能…教育活動を充実させている」に対して、何をどのように改善すれば、保護者が「充実させている」と考えるのかについて、聞き取りをすることなどが、今後の対応にあたって効果的なのではないのでしょうか。

C いずれも学習、勉強に関する項目が低いことが残念です。厳しい意見かもしれませんが、英語に関しては子どもたちのなかでも「なぜ英語だけこんなに取り上げているのか」が理解できていないと思います。

子どもたちに「なんのためにこの勉強が必要なのか」「この勉強が何につながり、何に役立つのか」ということが、わからない、ピンとこない子どもが多いのではないかと思います。おそらく、他大学にいく子どもたちはいち早くこれらの学習に関することにはスイッチが入ると思いますが、そうでない子どもたちは一貫校（内部進学がある）だからこそ学習のスイッチが入りきらないのではないかと思います。

中学、高校ともなると保護者は子どもから得る情報も少なく、どういう授業をしている、勉強をしているのかは成績の評価でしか保護者は判断できません。学校の取り組み、先生方の取り組みを保護者に知ってもらうためにも授業参観を増やす等、理解を深めてもらうということもいいのではないかと思います。

D 傾向がばらついた結果が出てきたなと感じました。

19・12については比較的わかりやすく設定できますが、それ以外の項目は「意欲」「育む」「思考力・表現力」と、ややつかみどころがない設問であったとも思います。

子供の様子から理想とする授業や学習が行われているかどうかを判断することは難しいですし、なんとなくの印象で回答している項目も多いはずですので、日頃の学習の情報発信に注力して理解を深めてもらうのも一つの手かなと考えます。

E 評価値が低い項目は、いわゆる座学の学習面と、自らが考えて積極的に学ぶ姿勢・態度と捉えることができると思います。

これは全国的に言えることだと思いますが、研究授業など校内でお互いの授業を見合ったり、また他校の教員の授業を参観したりすること等が、小学校に比べて中学校や高校では、その頻度がかなり低いと思われます。

忙しく、時間のない中でも智慧を出し合い工夫して、まずは定期的に校内でお互いの授業を見合い、少しでも授業力を上げる努力をするなど、教員自らが学ぶ姿勢を見せることによって、その背中を見て、生徒も自ら考えて積極的に学ぶ姿勢・態度が見られるようになってくるのではないのでしょうか。（「子は親の鏡」「生徒は教員の鏡」）

F 失敗を恐れない姿勢、高いコミュニケーション能力、行動力…それは成城学園の生徒全般に見られる特徴であるように思うが、もっともっと成城の外にも目を向けた活動や課題を深く掘り下げていく取り組みがあっても良いかもしれない。

たとえば、昨年度にも実施された灘高・筑駒との福島合同合宿。災害を知り、その跡をなぞるだけでなく、後日

には参加した3校の生徒がテーマを決めて発表する場が公開されていた。独自の視点で調べ分析～今後の課題までのそれぞれの考察が興味深く、他校との交流も含めて次につながる学びだと感じた。

明るく活発な成城の良さが自己満足で終わらぬよう、ただ体験することに留まらず、「考察」から本質をつかむ「洞察」へ…より深い学びへ続く活動が求められているように思う。

Q3 中学で相対的に評価値が低い項目について

3-3

15	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。	3.09	2.93	2.88	3.14	2.98	3.23	3.26	3.12	3.21
14	上位学校(中学校→高等学校、高等学校→大学)に関する情報提供は適切にされている。	2.94	2.53	2.60	2.91	2.67	3.24	3.24	3.16	3.21
17	「進路学習」「道徳」などを中心に、生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.81	2.61	2.59	2.92	2.69	2.94	2.99	2.83	2.93
12	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指すような教育活動が行われている。	2.71	2.61	2.47	2.77	2.61	2.81	2.82	2.81	2.82

A 中学では、子供たちの進路への関心が低いように感じる。学習意欲にも繋がるため、意識を高めてほしい。

B 中学から高校にかけて上昇する項目があるものの、下降する項目がないのは素晴らしいことだと思います。中1、2が低く、中3から徐々に上昇する項目が多いようです。情報モラルに関しては、早期の取り組みが必要だということを感じられます。

C 高校になると数値が上がっていますが、これは精神面での成長があるからなのでは、と思います。Q14、Q17、Q12は進路に関わることなので、年齢が上がれば進路に興味を持つことは当然のように思えます。Q15に関しても年齢が上がればそれなりに責任の重みを自覚すると思いますが、学年が下がれば下がるほどまだ精神は未熟であるとも思います。またこの問題は学校がどこまで指導するのかが難しいのではないのでしょうか。学校の情報モラルのスタンスを明確にするのは大切ですが、学校が指導云々の問題ではなく、各ご家庭の教育、躾、考えの範囲なのではと思います。

D この結果については、内部進学者と入試組の意識の差かなという気がいたします。成城学園が第一志望だった場合はさておき、そうでなかった場合。結果的に成城学園を（言い方は悪いですが）選択するしかなかった場合に、進学志向と申しますか、こういう傾向が出てくるのかなと思います。特に中学に入りたての頃はまだ受験をくぐり抜けてきた記憶も生々しく回転数もまだ下がっていない状態ですので、「次こそは！」の意識が強いのかもかもしれません。

E 中高で差がある項目に関しましては、成城学園は中高一貫になって久しいので教職員間の情報共有もきちんとされているでしょうから、どうしてそのような差が出てくるかは分かりかねます。ただ、いくつかの項目では生徒の発達段階による理解度の違いがそのまま差になって表れているようにも感じました。

F 高校の評価値に表れない理由として、中学生に比べて高校生が自立していることは大きいだろう。もしかしたら、子どもへは伝わっていて保護者が知らないケースもあり得るかも…??
心身ともに発達・成長する過程で、中学生は大人の管理下から、自分で考え管理するような自立した力が求められる。ただ、情報が多い不安定な世の中にあっては、成城学園としての指針を明確に示し指導していく必要があるように思う。

とはいえ、子どもから得る情報や保護者会で全体へ共有される情報から一歩足を進めて個別に教員へ質問してみると、より具体的で熱心な答えが得られることが多々ある。必要・重要と感じた時に学校側と交流することは問題の把握や相互理解にもつながり、建設的な関係が生まれるのではないか。学校と家庭が顔を合わせ、言葉を交わす機会が適切なタイミングで設けられることを願う。

Q4 「全体を通してのご意見・ご感想」「今後への提言」をお書きください。

A 無回答

B ①「学力」の項目が低い傾向にあります、「学力」が何を意味しているのか、各保護者により異なるかもしれないと考えました。成城学園に理念に共鳴して入学を選んだ保護者にとってどのような「学力」が「学力」なのでしょう、他校の保護者と同様な「学力」なのでしょう、そこをくみ取れたらいいのかもしれないと思いました。そのためにも「自由記述」の回答をさしつかえのない範囲で共有していただけたらいいのではないかと思います。

②先生方の教育方針や理念、どのような学力をつけさせたいと考えて日々おしえてくださっているのかなどについて、よりコミュニケーションをとる機会があると、保護者のあいだの納得度や信頼感を高めることができるのではないかと考えました。

③さしつかえのない範囲の抜粋でよろしいのですが自由記述の回答の一部について、情報を共有していただけますと数字だけでは見えない、保護者の、学校に対する思いをよりうかがえることができ、アンケートの回答の数字やグラフの背景を理解するための示唆を与えてくれるのではないかと考えております。

C 学校として、アンケートを取り、評価が高い、低いに関わらず真摯に向き合っている学校の姿勢に感謝とあらためて信頼を持ちました。

一つ思うことは、結果だけを伝えるのではなく、過程や理由を教えていただきたいと思います。保護者に教えていただけるのもありがたいですが、現場（学校）にいるのは子どもたちです。子どもたちが理解し、納得するのが一番だと思います。

また長年言われていることとは思いますが、成城生のよいところ、強みはコミュニケーション能力の高いところ、そしてお互いを思い合う気持ち、優しさだと思います。それはこの学校の持つ雰囲気であったり、環境であったりかもしれませんが、人として大きく成長するこの時期に様々なことを経験、体験させてくれる中学校高等学校の存在が大きいと思っています。数字では表せない、人としての魅力を育て続けている学校にあらためて感謝しております。

D 日頃の先生方のご尽力には、「感謝」というありきたりな言葉以外の何かいい言葉がないものかといつも思います。

先生方が理想とされる教育を実現するには、今という世の中は忙しすぎます。

世間や保護者から学校へ期待されるもの、やらねばならないとされているものが多すぎて、成城学園の教育とは何か、何を持って第一義とするのかがややもすればなおざりになってしまうような危機感を覚えます。私学が私学としてあろうとするには難しい時代になってしまいましたね。

しかしながら、やはりここは成城学園としての矜持を保ちながら、自信を持って「我が校の教育とはこういうものです」というお考えを打ち出していきたいなと思います。

ブレない理念を発信し続けることで、その理念に相応しい生徒が集まってくるのではないかと考えます。"

E Q10「本学園の良さを学外に伝えたい」の項目もそれなりに高い水準にあることは、私学である本学園にとってはありがたいことだと思います。

学園全校に共通することですが、理想としては、これがトップの Q9 を超えて 4.0 により近い一番になれるとより良いと思いました。それには、全体的な生徒の満足度をより上げると共に、Q11 の父母の会の連携をより良く進めていき、保護者の理解度をもっと高めていく努力をし、時代に合った工夫をしていくことだと思います。別件としまして、昨年度の報告書にも、

「成城学園の特色としてよくワンキャンパスという言葉が出てきますが、中高は連携ができていても、幼稚園、初等学校、大学とは、果たしてワンキャンパスを生かした連携ができているだろうか、と思います。ちょっと閉

じている感じがします。同じ敷地内に兄弟姉妹が通っているのがうちの学園の大きな特色であるなら、学校行事を含め、調整し合いながら運営されていくのが理想の形ではないでしょうか。」

とありましたが、自戒も込めて、その通りだと思いました。

特に、入学式や卒業式は、学園各校は以前から曜日ではなく、日にちでずっと指定されており、そこには各校が配慮し他の予定は入れないことになっていたかと思います。まずは、そういった基本的なことからお互いに配慮し、確認・調整し合いながら、他のことでも連携をより深めて行けたらと思っています。

改めまして、今後とも何卒よろしくお願い致します。

F 学校評価委員会で触れた『ジレンマ』について。

個性的な教員が「成城らしい」と評価される反面、統一した授業・指導をと公平性を強く求める声が多くあがる。しかし、複数の教員が全く同じ授業・指導を行えば、そこに教員の個性が存在する余地はなくなる。

『個性尊重』は生徒だけでなく教職員にも適用されていると個人的に捉えている。

生徒や保護者が求める「成城らしさ」と学校・教員が理想とする成城教育（＋文科省のガイドライン）の間で現場の先生方は葛藤もあることと勝手に想像。

…で、成城らしさって何だ？

某区立中学校の〇〇禁止令が“学校の押し付けである！”とニュースになる中、生徒常任委員会や父母の会の意見に向き合う成城学園はとても貴重で誠実な学校であると日々感謝している。

元気いっぱい！伸び伸び！だけがこの学校の魅力ではないような。

「成城らしさ」をこの学校に関わる皆で大切に考えてみたい。

委員長によるまとめ

昨年に引き続き、学校関係者委員会に於いて学校評価アンケートの結果を拝見する機会をいただきました。

全体の印象としては前年度同様、施設・設備等のハード面に対する満足度が高く、学校生活や行事全般への評価が高い一方で、学習面への評価がいまひとつ振るわないという傾向が依然として数字に現れています。

参考までに前年度の評価委員の意見を改めて見返してみても、指摘事項や学校への希望はほぼ同じような内容であることから、残念ながらこの１年間では目立った改善や変化には乏しかったと言えるのかもしれません。

評価委員からの共通意見としては以下の３点が挙げられるかと思っています。

- ・学習の「理由」「目的」を生徒にしっかり伝えること
- ・学習内容の深化
- ・保護者への情報発信の重要性

おおよそのことは最新の情報と意味・意義についての納得感があれば、たとえ道半ばであっても受け入れられるように思います。弛まず手間を厭わず伝え続けることが大切なのではないでしょうか。

それから、アンケートの形式について。

前年度と今年度、同じ質問内容に違う番号が振られていますが、同一の番号にしたほうが今後数年かけて結果の変遷を見やすいのではないのでしょうか。

また前回も今回も出た意見ですが、差し支えない範囲で自由記述の内容を開示していただけますとより考察が深まるかと思っています。ご検討いただければ幸いです。

最後に。

もし生徒たちに同じ内容のアンケートをとったらどのような結果が出るのでしょうか。このアンケートと似通っ

た結果が出るのでしょうか。生徒たちの満足度と保護者の期待に乖離はないのでしょうか。第二世紀プランや文科省のガイドラインに沿った教育の提供はもちろん必要なことですが、目標を達成することが目標になっていて、創立以来成城学園が大切にしてきたもの、本来目指すべき在り方などが揺らぐことがあってはならないと思います。先生方の日々のご尽力に感謝しつつ、これからの成城学園に期待しております。

令和5(2023)年度 学校評価アンケート 初等学校自己評価について

■はじめに

2022年度からは感染対策を講じつつも、コロナ前の教育活動が徐々に戻ってきた。このタイミングで学園の学校評価委員会が4年振りに組織され、本校でも日頃から本校の教育活動に理解と協力を頂いている保護者を対象に学校評価アンケートを実施する運びとなった。保護者アンケートの集計結果を十分に参考にし、本校の教育活動のさらなる向上につなげていきたい。

■学校評価保護者アンケート実施

- ・実施期間：2024年1月16日(火)～1月29日(月)
- ・対象：初等学校全保護者 「初等ネット」にてアンケートを配信
- ・アンケート回収率：75% (472件／630名の回答あり)
- ・アンケート項目

1) 下記Q1～Q25について、回答者が重要度と満足度について回答する。

【重要度】①たいへん重要 ②やや重要 ③あまり重要でない ④重要でない

【満足度】①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない

4段階の回答の点数化・・・ (4点) (3点) (2点) (1点)

2) Q26は任意の自由記述。 →資料：「自由意見結果一覧」(関係者部内秘扱い)

■保護者アンケート集計結果の読み取り

Q1 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。

①とてもそう思う(34%)、②ややそう思う(50%)、③あまりそう思わない(14%)、④思わない(3%)であり、①②の肯定的な反応は全体の84%になる。 **3.17(4.0満点)**

・コメント：校長懇談会の企画など父母の会委員や保護者とのコミュニケーションの増やし、「三位一体の教育」の実が伴うよう連携をより強くしていく。

Q2 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている

①とてもそう思う(44%)、②ややそう思う(40%)、③あまりそう思わない(14%)、④思わない(3%)であり、①②の肯定的な反応は全体の84%になる。 **3.27(4.0満点)**

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。児童一人ひとりに寄り添う教育活動と一口に言っても、課題が多いのが実際である。「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、学校として継続的に粘り強く

取り組んでいく。

Q3 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている

①とてもそう思う(63%)、②ややそう思う(32%)、③あまりそう思わない(3%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の95%になる。 **3.55(4.0満点)**

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。低学年での「遊び」「散歩」の時間や、クラスデー、校外学習、4～6年生の「夏の学校」、「スキー学校」などを通じて、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け継続的に取り組んでいく。

Q4 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、様々な表現活動や発表活動に努めている。

①とてもそう思う(59%)、②ややそう思う(33%)、③あまりそう思わない(6%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の92%になる。 **3.48(4.0満点)**

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。令和6年度から2回開催になる「音楽の会」、「劇の会」、「劇発表の会」、「合同体育」、「運動会」などを通じて、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、継続的に取り組んでいく。

Q5 学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている。

①とてもそう思う(44%)、②ややそう思う(41%)、③あまりそう思わない(13%)、そう思わない(2%)であり、①②の肯定的な反応は全体の85%になる。 **3.27(4.0満点)**

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。入試広報部発行『文質彬彬』（本校の科学的研究を基にした論文集）で学校からの発信として対外アピールに努め、創立者の教育の希望理想を継承していく。

Q6 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。

①とてもそう思う(27%)、②ややそう思う(46%)、③あまりそう思わない(21%)、そう思わない(6%)であり、①②の肯定的な反応は全体の73%になる。 **2.94(4.0満点)**

・コメント：幼・初・中高共通の質問項目の一つ。満足度2.94という数値と①「とてもそう思う」の反応率が27%、②「ややそう思う」の反応率が46%であることから、多くの本校保護者からは「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業」は行われているが、十分満足とまではいかない、という問題点を指摘されたと考えている。先生方と授業の質に関して見直し、改善策を講じていきたい。

本校ではあらゆる教科において、学習者である子どもが主体となり、対話的で探究的な深い学びを追究している。本年度、「探究する子の育成」を研究主題に「教育改造研究会」を開き、全国の教育関係者と協議した成果を発表している。学校での「学び」はどうあるべきか、保護者の皆様とも「学力とは何か」を刷り合わせていく必要がある。

Q7 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。

①とてもそう思う(55%)、②ややそう思う(39%)、③あまりそう思わない(5%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の94%になる。 **満足度 3.48(4.0満点)**

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。クラス活動の充実を図るとともに、トラブルが起こった時こそ友達と良い関係を築くチャンスととらえて、子どもたちの成長と人間関係の構築、人格の形成を学級担任だけでなく、教員チームとして見守っていく。

Q8 お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。

①とてもそう思う(62%)、②ややそう思う(31%)、③あまりそう思わない(5%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の84%になる。 **満足度 3.52(4.0満点)**

・コメント：保護者にたいへんよく評価されていることがわかる。「つながり」の時間などを通じて、最小6名から最大216名(6クラス)までのユニットとしての活動は、高学年児童のリーダーシップに期待するところ大である

Q9 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。

①とてもそう思う(68%)、②ややそう思う(26%)、③あまりそう思わない(5%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の94%になる。 **満足度 3.61(4.0満点)**

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。保護者の皆様には、いつ何時学校に来られてもかまいませんとしている。在校児の保護者に対し本校では常に門戸を開き、授業参観、学級担任や教科担当との個人面談、「学校からのお知らせ」や各組学級担任が発行する「クラス通信」などでお子さんたちの学校生活の様子が分かるように心がけている。

Q10 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

①とてもそう思う(72%)、②ややそう思う(26%)、③あまりそう思わない(1%)、そう思わない(0%)であり、①②の肯定的な反応は全体の98%になる。 **満足度 3.68(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校行事を発表の場として、子どもたちが表現力を養い、対人関係を深めるなど、子どもの成長を学校全体で見守っている。

Q11 お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。

①とてもそう思う(82%)、②ややそう思う(16%)、③あまりそう思わない(2%)、そう思わない(0%)であり、①②の肯定的な反応は全体の98%になる。 **満足度 3.8(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。「行事が人を育てる」として行事教育の重要性に鑑み、継続的に学校行事の充実に取り組んでいく。

Q12 お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。

①とてもそう思う(76%)、②ややそう思う(21%)、③あまりそう思わない(3%)、そう思わない(0%)であり、①②の肯定的な反応は全体の97%になる。**満足度 3.73(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。子どもたちはしなやかな発想力で創意工夫し、個々の表現力に磨きをかけ、教員は「心情の教育」の希望理想の実現に向け、継続的に子どもたちと向き合っている

Q13 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。

①とてもそう思う(42%)、②ややそう思う(41%)、③あまりそう思わない(15%)、そう思わない(2%)であり、①②の肯定的な反応は全体の83%になる。**満足度 3.23(4.0満点)**

・コメント：保護者にある程度は評価されているが、十分ではないことがわかる。個人情報や守秘義務など問題を整理した上で、教員対象の研修会などを通じ、保護者に気軽に相談してもらえるよう改善に向け取り組んでいく。

Q14 感染対策を含めて、学校内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

①とてもそう思う(44%)、②ややそう思う(44%)、③あまりそう思わない(9%)、そう思わない(2%)であり、①②の肯定的な反応は全体の88%になる。**満足度 3.28(4.0満点)**

・コメント：保感染拡大防止策が功を奏し、保護者に比較的高く評価されていることがわかる。今後の新たな感染症に備えるなど学校として危機管理の重要性を痛感したコロナ禍であった。

Q15 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。

①とてもそう思う(19%)、②ややそう思う(36%)、③あまりそう思わない(33%)、そう思わない(11%)であり、①②の肯定的な反応は全体の55%になる。**満足度 2.61(4.0満点)**

・コメント：本校では、学園中学校高等学校と連携し、毎年5月に初5児童対象の学園中高見学会、毎年5月・11月・1月の3回、初6合同保護者会を開催している。高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っていると考える。しかし、各学年の進級に関する情報や低学年・中学年保護者への進学に関する情報の提供にあまり重点を置いてこなかった。保護者の「我が子の先行き」に安心感を持ってもらうためにも、今後、改善の余地のあることだと受け取った。学園内広報のあり方についても再考していく。

Q16 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。

①とてもそう思う(52%)、②ややそう思う(43%)、③あまりそう思わない(4%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の95%になる。**満足度 3.46(4.0満点)**

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。保護者への一斉連絡のツールとして「初等ネット」の活用は周知の観点から有効であり、「学校からのお知らせ」配信のほかにも行事实施可否など緊急連絡など使い

勝手がよい。

Q17 特色ある教育活動が行われている。

①とてもそう思う(61%)、②ややそう思う(32%)、③あまりそう思わない(6%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の93%になる。**満足度 3.53(4.0満点)**

・コメント：保護者にたいへんよく評価されていることがわかる。「ここにしかない時間」のキャッチフレーズで学校案内パンフレットのほか、学校説明会・進学相談会・インスタグラムなど入試広報活動、幼初推薦連絡説明会、その他教育改造研究会やその他研究授業発表会等々で本校教員の発信力の高さによるところも大きい。

Q18 英語の授業を通じて、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を伸ばす教育活動を充実させている。

①とてもそう思う(14%)、②ややそう思う(47%)、③あまりそう思わない(26%)、そう思わない(13%)であり、①②の肯定的な反応は全体の61%になる。**満足度 2.62(4.0満点)**

・コメント：成城学園第2世紀プランにある教育改革三本柱の一つが「国際教育の充実」であり、中でも英語一貫教育推進は学園からの支援を受け、本校でも重点的に取り組む教育活動である。第2世紀プランに基づく中期計画(2021～2023年度)の目標にも「英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の『聞く』『話す』『読む』『書く』の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる。」を掲げている。中期計画実行のコロナ禍での影響は言い訳に過ぎず、本質問への満足度2.6は猛省すべきことととらえている。校長自ら英語研究部に入り、英語授業担当者と英語教育の充実のために出来る事は何でもする覚悟である。2023年度は中期計画の最終年度となる。次年度の保護者アンケートに同一の質問があれば、満足度が3.0を超えるように英語研究部だけでなく、学校を挙げて努める。

Q19 学校は、日々の教育活動で、ICT機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用した授業を行っている。

①とてもそう思う(31%)、②ややそう思う(48%)、③あまりそう思わない(17%)、そう思わない(4%)であり、①②の肯定的な反応は全体の79%になる。**満足度 3.06(4.0満点)**

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。校内のICT機器を活用し、教育環境の整備が図られ、デジタル・シティズンシップ教育も進められている。また、ご家庭の協力を得て、3年生以上1人1台iPadが定着し、ICT教育の充実に継続的に取り組んでいる。保護者アンケートの満足度が想定よりも低かったことを反省し、問題点の整理や今後の課題を見出していく。

Q20 学校では、デジタルシティズンシップに基づく教育活動が適切に行われている。

①とてもそう思う(22%)、②ややそう思う(55%)、③あまりそう思わない(19%)、そう思わない(4%)であり、①②の肯定的な反応は全体の77%になる。**満足度 2.95(4.0満点)**

・コメント：保護者には、ある程度評価されていることがわかる。iPad説明会や全校保護者会などを通して、ご家庭の協力を得て、ICT教育の充実に継続的に取り組んでいる。ご家庭の協力を得て、3年生以上1人1台iPadが定着した。

Q21 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている。

①とてもそう思う(24%)、②ややそう思う(50%)、③あまりそう思わない(21%)、そう思わない(5%)であり、①②の肯定的な反応は全体の74%になる。**満足度 2.93(4.0満点)**

・コメント：成城学園第2世紀プランにある教育改革三本柱の一つが「理数系教育の充実」であり、中でも情報一貫教育推進は学園からの支援を受け、本校でも英語教育の充実と共に重点的に取り組む教育活動である。第2世紀プランに基づく中期計画(2021～2023年度)の目標にも「あらゆる教科において、筋道を立てて、考察・説明しようとする経験を積むことで、論理的に考える資質・能力を育成する。」を掲げている。

満足度3.0の数値は、重点的に取り組む教育活動の成果が保護者には十分に評価されていないことを意味する。今回のアンケート結果から反省点を洗い出し、次年度の改善に向け努めていく。

Q22 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

①とてもそう思う(70%)、②ややそう思う(27%)、③あまりそう思わない(3%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の97%になる。**満足度 3.68(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校としてメンテナンスを含め教育環境整備に積極的に取り組んでいく。

Q23 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている。

①とてもそう思う(53%)、②ややそう思う(41%)、③あまりそう思わない(4%)、そう思わない(3%)であり、①②の肯定的な反応は全体の94%になる。**満足度 3.46(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校として安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教育など)に継続的に取り組んでいくので、保護者の皆さまには毎日安心してお子さんを学校に送り出していただきたい。

Q24 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。

①とてもそう思う(67%)、②ややそう思う(29%)、③あまりそう思わない(3%)、そう思わない(1%)であり、①②の肯定的な反応は全体の96%になる。**満足度 3.62(4.0満点)**

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校として継続的に環境整備と校内美化に取り組んでいく。道徳教育の観点から学校施設・設備をきれいに大切にするなど、子どもたちの意識を高めていきたい。

Q25 本学園の良さを学外の人に伝えたい。

①とてもそう思う(53%)、②ややそう思う(36%)、③あまりそう思わない(8%)、そう思わない(3%)であり、①②の肯定的な反応は全体の89%になる。**満足度 3.39(4.0満点)**

・コメント：保護者によく評価されていることがわかる。学校・学園の発展は、受験児・受験生の安定確保と連動する。また、口コミこそ最も効果的な広報活動とも言われる。イメージアップに継続的に努めていく。

Q26 学校をより良くするためのご提案があれば、ご記入ください。

・コメント：「自由意見結果一覧」を見ての通り、保護者の皆様から実に様々な意見が寄せられた。ご意見・ご感想をいただいたお一人おひとりの「学校評価」として、学校としてしっかり受け止めさせていただく。

日常の子どもたちの学校生活、クラス活動、異年齢交流活動、人間関係、子どもと先生との関係等々、お褒めの言葉も「耳の痛い」お言葉もあった。全てに丁寧にお答えしたいところであるが、2024年度が始まっているところで、今後の学校運営を考える上で大いに参考にさせていただくことでご容赦いただきたい。

■結び

保護者アンケートの集計結果から回答者(保護者)にとって重要度・満足度とともに高かったのは、

Q3 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている

Q4 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、様々な表現活動や発表活動に努めている

Q7 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている

Q8 お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している

Q9 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。

Q10 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

Q11 お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。

Q12 お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。

Q16 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。

Q17 特色ある教育活動が行われている。

Q22 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある

Q23 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている

Q24 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。

の以上13項目であった。

反対に、回答者(保護者)にとって重要度が高く、満足度が低かったのは、

Q15 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。

Q18 英語の授業を通じて、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を伸ばす教育活動を充実させている。

以上2項目であった。

Q15については、現状、学園中学校高等学校と連携し、毎年5月に初5児童対象の学園中高見学会、毎年5月・11月・1月の3回、初6合同保護者会を開催し、高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っている。しかし、各学年の進級に関する情報や低学年・中学年保護者への進学に関する情報の提供にあまり重点を置いていなかった。そのため、保護者の「我が子の先行き」に安心感を持ってもらうためにも、学園内広報のあり方についても再考していく。

また、Q18について、本質問への満足度が昨年度に続き、2.62と低い評価に終わったことは残念なことである。校長自ら英語研究部に入り、英語授業担当者と英語教育の充実のために努力する所存である。次年度の保護者アンケートに同一の質問があれば、満足度が3.0を超えるように英語研究部だけでなく、学校を挙げて努める。

以上

学校関係者評価委員会 報告

成城学園初等学校 学校関係者評価委員会（以下、本委員会）は、令和 5 年度 成城学園初等学校 学校関係者評価の結果を以下の通り報告いたします。

I 本委員会の基本姿勢について

本委員会では評価に先立って、基本姿勢を定めた。その姿勢は次の通りである。

- 1 成城学園初等学校（以下、初等学校）に通う児童の幸福のために評価を行うこと。
- 2 1 の目的の実現のために各委員は、成城学園初等学校自己評価実施委員会（以下、自己評価委員会）から提出された自己評価、および学校評価アンケートを熟読・分析し、忌憚のない意見を述べること。
- 3 2 で各委員より出された意見について、1 の目的に適うか否かを熟議し、委員会としての意見を形成すること。

上記三点の基本姿勢に基づいて、評価を行ったことを、ここに明言する。

II 自己評価委員会の評価基準について

初等学校の学校評価アンケートは、回答者が各質問項目に対する満足度を 4 点満点で回答することになっている。自己評価委員会は、平均 3.4 以上の項目を保護者から高く評価されている項目、3.0～3.3 をある程度評価されている項目、それ以下を反省、改善が必要な項目としている。

この自己評価委員会の基準を、本委員会は妥当なものである、と評価する。満足度 3.0 という数値は 75% の保護者から高評価を受けていることを意味する。その数値を評価されているか否かの境界とするのは、けっして自己に甘い基準であるとは言えない。また満足度 3.0 を切る項目に対してなされている反省の弁に対しても、真摯なものであると評価した。

III 保護者アンケートで高評価を得た項目に対する自己評価について

自由記述以外の全 25 項目のうち、自己評価委員会が高評価を得たとしている項目は、13 項目ある。これらに対する自己評価委員会の評価は適切である、と評価する。

Q3,Q4 は、四綱領に関する項目であるが、両項目とも肯定的な評価が 92% 以上である。

本学園が最も大切にしている教育が保護者に高く評価されていることは素晴らしく、今後も四綱領を基盤とした初等学校の教育を維持していただきたい。

Q7,8の結果からは、児童が同級生のみならず異年齢の児童とも豊かな人間関係を構築していることが読み取れる。本委員会の委員からも「初等学校には個性を認め合う環境がある。友人がたくさんいる児童だけでなく、少数の友人と深く関係を結ぶ児童の個性も、周囲の児童が自然と認めているのが素晴らしい」という発言があった。自己評価委員会のコメントにもあるが、「つながり」の時間の存在も、異年齢の児童同士の豊かな人間関係の構築に大きく寄与していることと考えられる。また、「教員チームとして子供たちを見守っていく」旨の自己評価委員会のコメントがあるのも好感を持った。

Q9は、公開授業・情報公開に関する項目であるが、肯定的な評価が94%と素晴らしい結果となっている。保護者はいつでも授業を見学して良いというのは、学園内でも初等学校だけが認めている特別なルールである。またインスタグラムを用いて、先生たちの活動や思いを頻繁に発信していることも高評価の原因であると考ええる。

Q10～12は、劇や音楽の会をはじめとした学校行事に関する項目であるが、どの項目も否定的な評価が3%以下という大変素晴らしい結果となっている。初等学校が代々大切にしてきた教育が保護者に評価されている証であり、やはり今後も維持、発展させていきたい。

Q16は「初等ネット」と「学校からのお知らせ」に関する項目である。この項目も肯定的な評価が95%と素晴らしい数字となっている。ただし、本委員会の委員からは「学校からのお知らせの量と内容は適切だが、①情報の伝達が遅いことがあること②先生の思いを伝える部分と、連絡事項の部分が混在していて情報を把握しづらいお知らせがあること、の2点は改善していただきたい」との指摘があった。

Q17は、「特色ある授業が行われている」ことについての項目であるが、今まで述べてきたことを考えれば、この項目が高評価であることは当然であろう。

Q22～24は学校の施設・設備や安全対策、校舎内外の環境についての項目である。どの項目も94%以上の満足度と高評価であり、「保護者に十分に評価されている」とする自己評価委員会の分析に異論はない。本委員会の委員からは、安全対策について「昨年、成城学園前駅付近で事件が起きた時に、下校時刻ではあったが児童を帰宅させないなどの適切な対応をしていただき、安心した」という発言があった。

IV 保護者アンケートで低評価を得た項目に対する自己評価について

ここでの「低評価を得た項目」とは、満足度の平均が2.9未満である項目である。具体的には、Q15「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」、Q18「英語の授業を通じて、4技能『聞く』『話す』『読む』『書く』を伸ばす教育活動を充実させている」の2項目である。この二項目についての自己評価委員会の評価は、概ね

適切であるが不十分な部分もある、と評価する。以下、各項目の自己評価委員会の評価に対する本委員会の評価を述べる。

IV-1

Q15「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」の評価について

自己評価委員会は、5年生対象の学園中高見学会や、年3回行っている初6合同保護者会などを挙げ「高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っていると考える」と述べている。そして、改善すべきは「各学年の進級に関する情報や低学年・中学年保護者への進学に関する情報の提供」であるとし、「保護者の『わが子の先行き』に安心感を持ってもらうためにも、学園広報の在り方についても再考していく」としている。

これに対し本委員会は次のように考える。

まず、Ⅲ節で挙げた保護者から高い評価を受けている項目は、概ね保護者が直接見聞きして実感しやすい内容である。例えば児童たちの生き生きとした姿を劇の会や音楽の会で目にすれば、行事に関する評価が高くなるのは当然であろう。一方、低い評価になっているこの項目の内容は、保護者が見えづらい部分である。中学進学後の生活や学習内容がよくわからず不安な気持ちが、保護者に低い評価をさせている、と考えられる。そうであるならば、この不安を解消することが必要である。そのためには、例えば児童に対しては学園中学に進学した卒業生と直接コミュニケーションをとれる場を設ける、保護者に対しては、卒業生の保護者から中高のことを教えてもらえる場を設けるなどの対策が考えられる。そうすることによって、「学園広報」では伝わらないプラクティカルな情報が児童、保護者に伝わり不安が緩和されるのではないだろうか。また、高評価を得ている初等学校のインスタグラムと、中高のホームページとを連携させて中高の今が初等学校の保護者にリアルタイムに伝わるようにするのもよい方法だと考えられる。現行の取り組みで中高の「イメージ」は初等学校の高学年には伝わっている。あとは、先述した「プラクティカルな」情報を追加することで不足分を補うことが可能だろう。

IV-2

Q18「英語の授業を通じて、4技能『聞く』『話す』『読む』『書く』を伸ばす教育活動を充実させている」の評価について

満足度の平均が2.62という昨年同様の厳しい評価に対して、自己評価委員会は「猛省すべきこと」とし、「校長自ら英語研究部に入り、英語授業担当者と英語教育の充実のために出来る事は何でもする覚悟である」というコメントを出している。初等学校が目標としているのは「英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の『聞く』『話す』『読む』『書く』の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる」力を養成することである。数値的な目標としては英検4級合格を挙げている。

ところで、本委員会の4人のメンバーのうち二人は、昨年度から引き続き委員を務めている。昨年もこの文書にて低評価であった英語教育についての改善の弁を述べた。しかし残念ながら、英語教育に関しては根本的な改善は為されていないようだ、と考えざるをえない。自己評価委員会のコメントを読むと、「第2世紀プランに基づく中期計画」に縛られ、改善すべきことは明確になっているのに、それを改めることができないでいるのではないかと疑われる。「第2世紀プランに基づく中期計画」を達成することを至上命題としているのならば、それは手段の目的化に他ならない。成城学園の「英語一貫教育」が目指すべきは、学園の児童・生徒が異文化に興味を持ち、異文化のもとに生育した人々のことを理解し、地球市民としての自覚を持つことであろう。語学はそのための手段に過ぎない。英検4級取得といった数字を追いかけるのではなく、英語学習を通して異文化に親しむ態度を養成することこそが、初等学校の英語教育に求められていることだ。

そのような態度を養成するためには、①初等学校向きの英語教育を行うこと、②年齢に応じた英語教育を行うことが必要である。①に関しては昨年も記したが劇の会と連動して英語を用いた劇を行ったり、音楽の会で英語の歌を歌ったりするなどの教育が考えられる。また、つながりの時間、映像、散歩などの初等学校ならではの活動に英語を取り入れることで、初等学校の児童は楽しく英語を学ぶことができるのではないだろうか。②に関しては、大半の児童が興味を示せないような英文法の授業をするのではなく、ゲームや異文化を知ることができる本や絵本の多読などを通じて、英語の楽しさを体感させるような教育を行うべきである。どうか「英検4級合格」などといった数値目標に縛られて英語嫌いの児童を増やさないでほしい。「英語って楽しい」「外国の人たちとお話したい」という前向きな気持ちを持って中学に進学する児童が増えれば、中学での英検取得成績も自然と向上するであろう。

V その他の評価とアンケートの課題について

この節では、アンケートそのものに対する評価と自己評価委員会の評価の方法についての意見を三点列記したい。

- ① アンケートの回収率は75%であるが、この数値は高いとは言えない。現状は「初等ネット」で保護者全員にアンケート実施の告知等を行っているが、クラス単位での呼びかけは無いようである。よく知っている担任の先生からアンケート協力の依頼があれば回答率ももっと上がるのではないかと。
- ② 保護者はすべての質問の重要度と満足度を、それぞれ4段階で答えることになっているが、項目によっては4段階で評価することが難しかった。たとえば評価の材料がなく答えられない質問については「わからない」という選択肢があると、「いい加減な」回答をしないで済むだろう。また「どちらでもない」という中立の選択肢も用意すべきではないだろうか。

- ③ 自己評価委員会は、満足度を数値化するにあたって最も肯定的な評価に 4 点、最も否定的な評価に 1 点を与えているが、これは適切だろうか。最も否定的な評価は「重要でない」「思わない」という評価なのだから 0 点、反対に最も肯定的な評価に対しては 5 点を与えるべきと考える。そうすれば、より保護者の意思を反映した分析結果が出ると考える。

VI おわりに

I 節で述べたように、本委員会では児童の幸福を願い、議論し、上記のような評価を下した。この評価を初等学校、学園が活用してくれることを切に希望する。昨年お願いしたことであるが、保護者が時間を割いて行った学校評価アンケートについて明確なリアクションを示して欲しい。例えば、「学校評価アンケートを受けて、初等学校では～を行うことにしました」あるいは「学校評価アンケートでは～の結果でしたが、この点については～という考えのもと現状を維持します」などの発信をしていただければ、アンケートの「答え甲斐」も増し、来年度のアンケートの回答率も向上することだろう。初等学校、学園の真摯な対応を期待する。

令和5(2023)年度 学校評価アンケート 幼稚園 自己評価について

○はじめに

- ▶ コロナ感染対策が緩和され、今年度は、教育活動の様々な面でコロナ以前の活動が戻ってきた一年となった。コロナ感染症5類への移行が、5月に入ってから・年度途中での変更となったことや、特に一学期には、園児達の免疫力がコロナ禍で低下してしまっていたのか、コロナでもインフルエンザでもない風邪症状が増え、学級閉鎖、学年閉鎖などの対応も必要となり、どこまで感染対策を緩和していいのかを慎重に模索しながらのスタートとなった。

総体的にコロナ以前の教育体制が戻ってきたなかで、今回のアンケート結果を検討し、私たち教員が考えていることと、保護者の期待とに大きな齟齬が生じないよう今後の教育活動に活かしていきたい。

○学校目標（第二次中期計画）

Ⅰ．教育活動

（A）国際教育

（a）語学教育

- 1) 外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2) 英語の音、響き等に対する感覚を身につけ、実践しようとする。
- 3) 学園英語一貫教育の入口として、初等学校以降へのスムーズな接続を図る。

（b）国際交流

- 1) 世界を知る第一歩として、まず日本の文化を体験し、理解させる。
- 2) 英語を通して他国の存在を知るとともに、その文化への興味・関心を持ち、理解を深める。
- 3) 英語以外にも多くの言語が世界に存在することを知るとともに、英語圏以外の文化への興味・関心を持ち、理解を深める。

（B）理数系教育

（a）論理的思考力

- 1) 自分の主張を伝える力をつける。
- 2) 相手の考えを聴く力を養う。
- 3) 解決策を考える力を育てる。
- 4) 計画的に物事に取り組む力を育てる。

（b）デジタルスキル

- 1) ICTの楽しさを体感させる。
- 2) 子どもたちの興味関心、理解促進のために、日々の活動にデジタル技術を取り入れる。
- 3) 情報を整理、分析したり、判断する力を育てる。
- 4) ICT機器を扱う際の適切な使い方（態度やマナー、モラル）を身につけさせる。

（c）科学教育・環境教育

- 1) 自然への関心を育てる。
- 2) 植物の生長への興味・関心を育てる。

3) 自然科学への興味・関心を育てる。

(C) 情操・教養教育

- 1) 子どもたちの想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。
- 2) 友達と一緒に協力して行うことの楽しさを知り、その感覚を養う。
- 3) 芸術に対する感受性を育て、さらにその能力を伸ばし、創造力や表現力等の感性を磨く。

(D) 学校独自の分野

- 1) 恵まれた自然環境の中で、自然に触れ、五感を使って感性を磨き、実体験を増やす。
- 2) クラス学年を超えた集団生活を通して人とのつながり、共に生活することの意味を学ぶ。
- 3) 英語、美術、体操の三分野の能力のさらなる向上を図る。

Ⅱ. 研究活動

- 1) 幼児教育についての研究成果に基づいた保育の研究・実践を目指す。
- 2) 新教育要領に対応した成城カリキュラムの改善。
- 3) ポストコロナの新しい幼児教育のあり方を考える研究プロジェクトの立ち上げ。

Ⅲ. 社会連携活動

成城地域の人の協力を得ながら、地域社会が行っていることへの、子どもたちの理解を深める。

○学校評価アンケート

- Ⅰ. 実施期間：2024 年 1 月 16 日～1 月 29 日
- Ⅱ. 対象：幼稚園 全保護者 「幼稚園ネット」にて配信
- Ⅲ. アンケート項目

下記 Q1～Q23 について、調査対象者について回答する。

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

- Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。
- Q2 特色ある教育活動が行われている。
- Q3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。
- Q4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。
- Q5 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。
- Q6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用し保育を行っている。
- Q7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。
- Q8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。
- Q9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。
- Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。
- Q11 子ども達についての情報が十分共有されている。
- Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。
- Q13 人間関係を大切にしたい教育が行われている。
- Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。
- Q15 幼稚園は、普段の登園・降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。
- Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。
- Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。
- Q18 感染対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。

Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

Q20 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。

Q21 保護者全体のマナーが向上した。

Q22 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。

Q23 本園の良さを学外の人に伝えたい。

Ⅳ. 集計結果より

1) 回答数・回答率（ ）内は在籍者数

回答数：年少 36 (39)	年中 36 (39)	年長 35 (40)	合計 107 (107)
回答率：年少：92.3%	年中：92.3%	年長：87.5%	全体：90.7%

2) 集計結果

①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない の4段階評価
右枠内の数値は、小数点以下を四捨五入したパーセンテージ(%)数値。

No.	質 問 項 目	①	②	③	④
Q1	学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。	70	26	4	0
Q2	特色ある教育活動が行われている。	62	30	8	0
Q3	幼稚園の国際教育は、十分に行われている。	44	47	8	2
Q4	幼稚園の理数系教育は十分に行われている。	16	42	35	8
Q5	自然環境を生かした教育(園庭活動の推進)が行われている。	85	15	0	0
Q6	幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用し保育を行っている。	20	46	26	8
Q7	幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。	65	29	5	1
Q8	様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。	75	22	4	0
Q9	伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。	76	22	2	0
Q10	丁寧な子どもの観察が、行われている。	66	30	3	1
Q11	子ども達についての情報が十分共有されている。	48	41	9	2
Q12	一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。	62	32	6	1
Q13	人間関係を大切にした教育が行われている。	69	25	6	0
Q14	お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。	73	26	1	0
Q15	幼稚園は、普段の登園・降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。	58	30	10	2
Q16	幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。	74	22	4	1
Q17	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。	52	32	10	6
Q18	感染対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	67	31	2	0
Q19	幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	77	22	2	0
Q20	自分自身でマナーの向上に取り組んだ。	49	46	6	0
Q21	保護者全体のマナーが向上した。	25	49	22	5
Q22	保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。	53	36	8	4
Q23	本園の良さを学外の人に伝えたい。	65	31	5	0

3) 高い満足度を得られている設問について

(①「とてもそう思う」の回答が7割以上)

- Q 1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。(①70%)
- Q 5 自然環境を生かした教育(園庭活動の推進)が行われている。(①85%)
- Q 8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。(①75%)
- Q 9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。(①76%)
- Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。(①73%)
- Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。(①74%)
- Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。(①77%)

▶上記7項目は、②「ややそう思う」と合わせると9割以上の保護者の方から肯定的な回答が得られ、昨年に引き続き、日々の教育・保育に関わる内容について、高い評価をいただけたことを、幼稚園として、有難く受け止めている。

4) 相対的にみて満足と捉えている保護者が多い設問について〔上記3に該当する7つの設問を除く〕

(①「とてもそう思う」②「ややそう思う」の回答合計が8割以上)

- Q 2 特色ある教育活動が行われている。(①62%②30%)
- Q 3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。(①44%②47%)
- Q 7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。(①65%②29%)
- Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。(①66%②30%)
- Q11 子ども達についての情報が十分に共有されている。(①48%②41%)
- Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。(①62%②32%)
- Q13 人間関係を大切にされた教育が行われている。(①69%②25%)
- Q15 幼稚園は、普段の登園・降園時の他、行事等を通してお子さんたちの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。(①58%②30%)
- Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。(①52%②32%)
- Q18 感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。(①67%②31%)
- Q20 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。(①49%②46%)
- Q22 保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。(①53%②36%)
- Q23 本園の良さを学外の人に伝えたい。(①65%②31%)

▶上記13項目にわたって、保護者の方の8割以上の方から、相対的にみて満足(①②の合計)と受け止めていただけていることをとても有難く感じている。更に、そのうち12項目において、②よりも①の割合が高いことも有難いことであった。

5) 相対的にみて満足していない保護者が多い設問について

(③「あまりそう思わない」④「そう思わない」の回答合計が2割以上)

- Q 4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。(③35%④8%)
- Q 6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用し保育を行っている。(③26%④8%)
- Q21 保護者全体のマナーが向上した。(③22%④5%)

▶「相対的にみて満足していない保護者が多い設問」ということで、否定的な回答合計が「2割以上」の設問をまとめたが、それぞれの設問において③④の合計が、43%、34%、27%とかなり違いがあるため、幼稚園としてこれらの数値をどうとらえて改善していくかについては、それぞれの設問のところで述べることとする。

6) 各質問項目について

Q 1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。①70%

「自分で気付く」力を育てることを重要視して日々の教育・保育に取り組んでいる幼稚園として、昨年度に引き続き、保護者の方から高評価を得られたことを有難く受け止め、今後さらに力を注いでいきたい。

Q 2 特色ある教育活動が行われている。①62%

各学年ともに肯定的な評価が得られているが、成城幼稚園の「特色」について常にアップデートしていくことを忘れずに、研究・実践を心がけ工夫していきたい。

Q 3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。①44%

①②合わせて9割以上の肯定的な回答が得られたが、①よりも②の割合が若干ではあるが、多かったことを真摯にとらえ、幼稚園段階で育てたい国際感覚について吟味検討を続けていきたい。

Q 4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。①16%

①②の合計が58%と辛うじて半分を越え肯定的な回答が得られているが、全設問中、肯定割合が一番低い。この数値には、幼稚園段階での理数系教育ということについて、教員の考えるイメージと保護者が考えるイメージとの齟齬も大きく影響しているように思えるため、教育保育内容での工夫とともに、保護者との共通理解へ向けた働きかけも大事にしていきたい。

Q 5 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。①85%

①の数値が全設問中一番高いだけでなく、①②合わせて100%の回答をいただいた。恵まれた園庭を活用した自由遊びから、子ども達の自主的な学びをさらに引き出していきたい。

Q 6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用し保育を行っている。①20%

全設問中、①②を合計した肯定割合が二番目に低いが、それでも66%の回答を得られた。これは、状況に応じたICT機器の活用は大事だと考えているが、幼稚園段階での教育においては、より対人関係を重視しているという幼稚園の考え方と合致している結果と受け止めたい。

Q 7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。①65%

①②の合計割合は94%と安定した評価が得られた。今後も、この評価を維持できるよう努めていきたい。

Q8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。①75%

①単独でも、①②の合計でも高い評価を得られた。幼稚園としても「本物」が与える園児への影響は大きく、大事にしていることなので、今後もより一層の充実を目指し続けていきたい。

Q9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。①76%

前設問同様、①単独でも①②の合計でも高い評価を得られた。国際感覚を育てるためにも、日本の伝統文化や四季の行事の体験を、今後も大事にしていきたい。

Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。①66%

①②の合計は 96%と高い評価を得られたが、子ども達の個性を大事にする成城幼稚園の教育の基本となる子どもの観察という点からは、①項目の数値がより高くなるよう取り組んでいきたい。

Q11 子ども達についての情報が十分共有されている。①48%

①②合わせると 89%の肯定的な回答が得られたが、①単独の数値が他の設問よりもかなり少ないことを真摯に受け止め、保護者がどのような情報共有を望んでいるのかを確認するところから取り組んでいきたい。

Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。①62%

設問 10 同様、①②の合計は 94%と高い評価を得られたが、子ども達の個性を大事にする成城幼稚園の教育の基本という点からは、①項目の数値がより高くなるよう取り組んでいきたい。

Q13 人間関係を大切にした教育が行われている。①69%

対人関係の成長を大切に考える幼稚園教育において、この設問でも高評価を得られたことを有難く受け止め、引き続きより高い評価を得られるよう教員一人ひとりの教育能力の向上を考えていきたい。

Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。①73%

①単独でも、①②の合計でも高い評価を得られた。引き続き、園児一人ひとりの気持ちを大事に寄り添いながら、子ども達にとってより良い友達関係が築けることを大切に、教職員全員で関わっていききたい。

Q15 幼稚園は、普段の登園・降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。①58%

コロナ対応が緩和され、昨年度と比較すると、保護者の方に園児達の活動を見ていただくことは増えたが、①②の合計は 88%でも①の数値が低いのは、それがまだ不十分と受け止めている保護者の方が多いということと受け止めている。来年度以降、コロナ以前の形態に戻る行事が多いので、より満足していただけることと期待している。

Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。①74%

①単独の数値だけでなく、①②の合計で 96%の肯定的な回答を得られた。アンケート調査方法に違いはあるものの、昨年度に比べて、全体としてかなりの高評価を得られた。この評価が維持できるよう来年度以降も取り組んでいきたい。

Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。①52%

①が 52%と他の設問に比べると低めであるが、①②の合計は 84%とそれなりの評価を得られていること、また昨年度のアンケートに含まれていた重要度の基準では重要度が低いという回答が多かったことから、子ども達の「心身の健康」について心配している保護者が少ないため、①の数値が低かったのではないかと推測する。これは、③④の否定的な回答の合計が 16%ということからも、推測できるととらえている。今後は、昨年度同様、現状を維持できるよう対応していきたい。

Q18 感染対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。①67%

①②の合計で 98%と高い評価が得られた。引き続き、園児達の健康と安全が守られるよう努めていきたい。

Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。①77%

この設問に関しても、①②の合計で 98%の高い評価が得られた。来年度以降も、この環境の維持に努めていきたい。

Q20 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。①49%

①②の合計が 95%と高いものの、①だけでは 49%と他の設問に比べるとかなり低い。小さい子どもにとって周囲の大人の行動の影響力は大きい。保護者が自分自身の行動において、マナーの向上に努めたと自信を持って言えるよう幼稚園としての働きかけを検討していきたい。

Q21 保護者全体のマナーが向上した。①25%

前項目と比較してかなり低い評価になったということは、他者のマナーに対してマイナス評価をしている保護者が多いということと受け止め、引き続き幼稚園として対策を考えていきたい。

Q22 保護者全体のマナー向上にむけて、幼稚園は努めている。①53%

前々項目・前項目に比較し、①で高い評価を得られたことは有難いことだが、上記 2 項目においても高評価が得られるような対応を引き続き、幼稚園としても検討していきたい。

Q23 本園の良さを学外の人に伝えたい。①65%

①②の合計で 96%の肯定的な回答を得られたことを、有難く受け止めている。在園保護者の評価が一番の広報活動と考えられることから嬉しい結果だった。

V. まとめ

23 の全設問において、肯定的な回答（①②の合計）が否定的な回答（③④の合計）を上回っており、幼稚園の教育活動について、保護者の方から評価いただけたことは有難いことであった。これらの数値に甘んじることなく、引き続き幼稚園教育の内容を検討し、カリキュラムの内容の精選だけでなく、一人ひとりの教員が自己研鑽に努め、幼稚園教育の質の向上に努めたい。

2023年度 幼稚園学校評価 回答率一覧

	なのはな	れんげ	たんぽぽ	すみれ	ちゅうりっぷ	ばら	全体
回答率	90.0%	94.3%	95.0%	89.5%	95.0%	80.0%	90.7%

	なのはな	れんげ	たんぽぽ	すみれ	ちゅうりっぷ	ばら	合計
男子	8 (10)	10 (10)	10 (10)	8 (10)	10 (10)	7 (10)	53 (60)
女子	10 (10)	8 (9)	9 (10)	9 (9)	9 (10)	9 (10)	54 (58)
合計	18 (20)	18 (19)	19 (20)	17 (19)	19 (20)	16 (20)	107 (118)

() 在籍者数

		とてもそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。	70.0%	26.2%	3.7%	0.0%
2	特色ある教育活動が行われている。	61.7%	29.9%	8.4%	0.0%
3	幼稚園の国際教育は、十分に行われている。	43.9%	46.7%	7.5%	1.9%
4	幼稚園の理数系教育は十分に行われている。	15.9%	42.1%	34.6%	7.5%
5	自然環境を生かした教育(園庭活動の推進)が行われている。	85.0%	15.0%	0.0%	0.0%
6	幼稚園は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用し保育を行っている。	19.6%	45.8%	26.2%	8.4%
7	幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。	65.4%	29.0%	4.7%	0.9%
8	様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。	74.8%	21.5%	3.7%	0.0%
9	伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。	75.7%	22.4%	1.9%	0.0%
10	丁寧な子どもの観察が、行われている。	66.3%	29.9%	2.8%	0.9%
11	子ども達についての情報が十分共有されている。	47.7%	41.1%	9.3%	1.9%
12	一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。	61.7%	31.8%	5.6%	0.9%
13	人間関係を大切にした教育が行われている。	69.2%	25.2%	5.6%	0.0%
14	お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。	72.9%	26.2%	0.9%	0.0%
15	幼稚園は、普段の登園・降園時の他、行事などを通してお子さんたちの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。	57.9%	29.9%	10.3%	1.9%
16	幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。	73.8%	21.5%	3.7%	0.9%
17	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。	52.3%	31.8%	10.3%	5.6%
18	感染症対策を含めて、幼稚園内におけるお子さんの健康と安全が、十分に守られている。	67.3%	30.8%	1.9%	0.0%
19	幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	76.6%	21.5%	1.9%	0.0%
20	自分自身でマナーの向上に取り組んだ。	48.6%	45.8%	5.6%	0.0%
21	保護者全体のマナーが向上した。	25.2%	48.6%	21.5%	4.7%
22	保護者全体のマナー向上に向けて、幼稚園は努めている。	53.3%	35.5%	7.5%	3.7%
23	本園の良さを学外の人に伝えたい。	64.5%	30.8%	4.7%	0.0%

2023年度 幼稚園学校評価 自由記述

学年	「令和5年度(2023)重点目標」について、または幼稚園に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。プラス面、マイナス面問わず、ぜひご記入ください。
年長	担任の先生がとても子供たちの様子を見てくださっていて、相談もしやすいし、とても頼りになる存在です。一方他の学年などの先生の欠員が多かったりと、人員の面で現状と今後が心配かなと思います。
年長	先生たちの入れ替わりが激しく突然の休職等は心配になる上、知らない先生がいつのまにか増えていたりすることが心配。園児たちのためにも先生たちが安定して働けるようになってほしい。また、「お楽しみランチ」は、【お弁当は子供の好きなものだけ入れてください】というこれまでの幼稚園の方針とは異なり、頑張って挑戦しないと完食が難しい野菜中心のおかず等、一部の園児にとってはお楽しみ感の少ないメニューになってしまっていることが残念。子供たちの意見を聞くなど、もっと子供が食べやすいメニューを考えてほしいと思う。
年長	先生方皆様、子供達のために日々尽力してくださっている実感と共に、感謝しております。ただ、手間暇のかかる教育理念ゆえかと推察しますが、人手が足りて無い印象があり(保育への不満ではなく)御負担を心配しております。
年長	いつも細部にわたって見守り、気づき、共有してくださる先生方に感謝しております。成城学園の三位一体の教育は幼稚園が基盤となっていると感じています。ありがとうございます。
年長	良い環境の中で、先生方のお話を素直に受け入れるような姿勢が身についた。それにより、自分と友人を大切に思う気持ちが育まれた事が大きな成長だと感じております。一生の財産です。
年長	お楽しみランチをもう少し子供が好きなメニューにしてほしい
年長	ここ数年で保護者の方々の品位がかなり損なわれてしまったと感じます。世代の違いやコロナの影響もあるとは思いますが、前では考えられないような立ち居振舞いや言葉遣いの方、物事の判断、マナーなどが保護者らしからぬ方が多過ぎると思います。時代の流れに沿うべきとはいえ、自由、個性尊重という成城の特性をはき違えてしまっているのか、配慮や遠慮が足りていない方が目立ちます。あくまでもそれは子供達への教育理念だと思うので、今の雰囲気をととても残念に思っています。なかなか保護者同士で介入しにくい部分だと思うのでもう少し園側の注意や呼びかけが増えた方が良いのではないのでしょうか。宜しく願い致します。

年長	1.多様な人材現状はほぼ全員が女性教員ですが、性別や国籍、キャリアなどより多様性のある教員が増えるとさらに良いと思います。2.透明性三位一体を推進していくにあたり、園の運営や日々の教育について園、教員、保護者がもっと双方向でコミュニケーションを取ったり、情報共有できる環境や仕組みがあると良いと思います。
年長	多くの自然の中で伸び伸びと遊べた3年間はとても有意義だったと思います!!またいつでもものづくりが出来たのは自由な発想へと繋がりが良かったと思います。ありがとうございました。英語に関してはもう少し手厚い授業をしてほしかったように思います。課外授業を取っていましたが、あまり身に付いていなかったので少し残念でした。
年長	日頃より大変お世話になっております。毎日の保育はもちろん、イベントの準備、片付け、事務作業、会議、スケジュール調整、各保護者への対応など、本当にお疲れ様です。ありがとうございます。毎日、安心して子を預けられるのは先生方のご尽力あってこそだと思っております。昨今、状況により変更しなければならないことや、保護者と相談しながら確立していくべきことが多々あると存じます。特に、こどもが関わる環境は、各家庭で考え方がまるで違うので、全員の意向を通すことは難しいと思います。そのような中、アンケートをありがとうございます。私からは、現状に対して何も要望はございません。満足しております。反対に、先生方こそ、いつでも何なりと保護者にご相談ください。できることがありましたら是非お役に立てればと存じます。日頃から、きちんとお礼を申し上げることができないので、こちらのアンケートをお借りしてお伝えさせていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。
年長	宿泊保育など、コロナ前に行われていた行事の復活等、子どもたちのために様々なご尽力をいただき、ありがとうございます。
年長	各期末等の担任からの写真入りお便りを楽しみにしていますが、画質が粗くよく見えないのが残念です。高画質の画像を貼り付けたデータで配布していただきたいです。保育時間が短いです。入園希望にも大きく影響していますし、延長保育が望まれます。園児が発表側になるイベントが少ないです。幼稚園版劇の会があると良いです。
年長	ジェイミー先生の英語の時間がもっとあったらよかったと思います
年長	先生方の突然の不在の際、それが長引いた時の説明が少し不十分に感じました。一年間を通して同じ担任の先生だった事が、年長ではじめてだったので(年少年中と途中で先生が変わったため)、通年同じ先生から学びを得られる事が、先生方との信頼関係を作る大きなきっかけだと感じました。様々なご事情があり致し方ない事とは存じますが、一年間担任の先生が変わらないということは、子どもにとっても親にとっても、とても大きな事だと思います。
年長	いつも大変お世話になっております。娘は毎日楽しく幼稚園に通っております。幼稚園生活の中で何あ疑問に思ったことがあった時に、いつも先生方に相談できる環境をご用意いただき大変嬉しく思っております。コロナが明け、色々な行事が元に戻った際に、保護者のマナーが少し悪いなと感じることがあります。私語厳禁のところで話してしまったり、順番を守れなかったり様々です。年長が率先して、マナーが守れるよう残りの幼稚園生活を過ごしたいと思います。

年中	日々、小さい子供達をきめ細やかにご指導くださりありがとうございます。行事や保育参観で、子供達との関わり合いがどれだけ大変か先生方のお心遣いご指導ありがたく存じます。微力ながら父母で何かお力になれる事があればと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。
年中	2学期に保護者会がありませんでしたが、ぜひ各学期ごとに保護者会は開いて欲しいです。保護者の方とゆっくりお話する機会が少ないので、他のお子様の成長についてや家庭での様子、お悩みなど色々な話を聞くことができる保護者会をいつも楽しみにしています。そして、子育ての参考にさせていただいています。行事が多くなかなかスケジュールの調整が難しいかとは思いますが、形式ばったものでなくても、保護者の方々と気楽に意見交換をしたり、話し合える場があるととても嬉しいです。
年中	担任の先生はじめ、幼稚園の先生方皆様が子どもたち一人一人に寄り添ってくださり、こまやかなお心遣いをいただいております。幼稚園での行事、お友達との関わり、英語や美術教育等のさまざまな経験から、子どもも心身共に大きく成長していることを実感しています。今年度から緑の門から銀の門への登園となり、保護者が送迎でホールにお迎えに行く日常から、参観や行事などで子どもたちが幼稚園で過ごす姿を近くで感じる事ができたことが、更なる安心に繋がっていると思っています。私共両親も安心してお預けすることが出来ており、心より感謝しております。
年中	日頃より、園長先生、担任の先生を始め各先生方に子どもの成長を見守っていただき、大変感謝しております。重点目標につきましては、特に情操教養教育が素晴らしいと感じております。文化祭での年長さんと協力して創り上げたダンボール制作や、先日行われた音楽祭では準備日程はタイトでありながら、制作物の素晴らしさや子どもたちの生き生きとした歌声に感動しました。学年を超えて、協力し合うこと、舞台に立ち表現、発表ができる事など子どもたちの成長を実感しました。これらは先生方が子どもたちと真摯に向き合ってくださっている結果だと感じております。園児の生活研究という点でも、子どもの様子を良く見てくださっていると感じます。しかし、先生の人員不足により先生一人一人の負担が大きいように感じ、心配です。また、先生方に頼るだけでなく、家庭での教育、生活習慣、親のあり方をしっかり見直し、三位一体の教育を邁進していきたいと思ひます。
年中	担任の先生だけではなく園長先生や園の全員の先生方が皆様で子供たちに寄り添いサポートして下さり、またその事をしっかりと情報共有して下さっているのが伝わってくる事が多く、とても感謝しております。
年中	降園時、靴の履き替えのあるお迎えスタイルが少し大変だなと感じています。お迎えが大人のみの場合は問題ないのですが、在園生に兄弟がいる場合、外で待つ小学生も自転車のよく通る道で危ない時がありますし、下の兄弟の靴の履き替えも玄関の混雑の原因になっている場合があるかと思っています。昨年度の、お庭からの降園スタイルの方が安全面や、兄弟の負担を考えても良かったと感じています。ご検討をお願い致します。

年中	いつも丁寧なご指導ありがとうございます。お楽しみランチについて、とてもありがたく毎回楽しみにしております。今後も継続を希望します。食材の良さだけでなく、幼児にとっての食べやすさ(噛みやすさ、歯に挟まりにくい、苦味を減らすなど)もご考慮いただけると、子供達もより楽しく、より良くなるのではと感じています。幼少合同の運動会について、改善の希望がございます。幼稚園の保護者観覧場所が非常に狭く、今年からは人数制限をせずに一般の方にも公開されていることもあり、とても身動きがとりずらく、観覧しづらい状況でした。子供達の頑張っている様子が良く見えずに残念な思いをしましたので、よく見えるように大グラウンド(昨年度春の運動会を実施した場所)での実施を希望します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
年中	一人一人の子どもを良く見ていただき、とても伸び伸びと、かつ、しっかりとした幼稚園生活を送らせていただいていると思います。保護者にも率直にご指導いただけるところが、とても信頼できる場所です。
年中	本年度は先生方の長期休業が相次ぎました。教育現場はとても過酷な職場だと想像致します。子育てをしている中で、たった数人の我が子の相手をするのも大変なのに、大勢の、しかもお預かりしている子ども達を…となると、心身ともにそれは想像をはるかに超える重労働となる事でしょう。そんな大変な職場でも、少しでも楽になる様な、少しでも楽しいことが増える様な、そんなお手伝いを私たち親に出来ることはないでしょうか?「三位一体」を子どもたちだけではなく、先生方の為にも活かせる…そんなお手伝いはないでしょうか??
年中	保育参観で子どもの様子を見ることができて嬉しいが、毎回ほとんどの時間が外遊びなので、お集まり等教室の中で先生と子どもたちが関わる様子も見たい。仲が良すぎるからなのか、年少親のマナーが悪すぎる。毎回大人数で横一列で歩いたり非常に迷惑している。遅刻のカウントをしたら良いのではないか。子どもを届け帰宅していると、登園時間の9:10を過ぎているのにゆっくり歩いている親子を見かけることがある。
年中	先生方には息子の特性を理解していただきありがたく思っております。保育の中での声掛けや息子が理解できるように工夫をしていただいているおかげで息子が楽しく幼稚園に通ってます。ありがとうございます。
年中	英語授業の内容(単語や読んだ絵本)について、保護者達にも共有して頂ければ自宅でも復習することができればありがたいです。
年中	今年度より、保護者が園舎へ入る機会が増え昨年度より普段の様子が分かるように感じました。今年度前半は担任の先生の欠席が続き、クラス替えがあった直後の子供たちへの影響が気掛かりでした。ですが代わりに担当して下さった先生方、みんなの先生の丁寧なご指導で安心してお任せでき感謝しております。また私たち保護者のマナーに関しては、各々がもう少し意識を高く持つよう努める必要があるように思います。送迎時の車のマナー、また園舎に入る際のマナー(スマートフォン、室内履き)等。自分自身も改めていきたいと思います。

年中	職員の手薄感をひしひしと感じる1年でした。その為、何事においても子供達にとって十分な環境では無かったように思います。成城幼稚園の特色、強み、売り、は何でしょう。十人十色の教育には十分な大人の目と手が必要だと思いますし、三位一体教育には先生方と保護者の絶対的な信頼関係が必要です。強みと思っていた成城幼稚園の土台の部分が揺らいでしまっているように感じました。重点目標達成の前にとりかかるべき問題がありそうです。
年中	面談の際、先生が細かく子供の様子と気持ちをしっかり見ていて、それを伝えて下さり安心致しました。引き続きよろしくお願い致します。
年中	本年度も、毎朝幼稚園を楽しみに笑顔で登園し、帰宅時には今日あった出来事を沢山話してくれる娘の姿を見て、日々、先生方のおかげだと感謝しております。年中になり、沢山の成長を感じられる機会が増えました。楽しい・嬉しいだけではなく、悲しい・悔しいなどの感情も芽生え、お友達とのやり取りの中で、人の気持ちを考えることや、自分の思いを言葉にすること、協力して何かをやり遂げることなど、論理的思考力を学んでいるなど感じております。感情が豊かになり、涙してしまった時も、先生方が優しくご対応してくださり、娘も私達も支えていただきました。また幼稚園での活動や行事への取り組みも、年少の頃より理解し、より深く経験や思い出として刻まれているなど思っております。本年度はコロナ禍の人数制限や飲食なども緩和され、昨年度とは違う楽しみを経験することができ、先生方のご理解に感謝いたします。特に運動会や文化祭・音楽祭などは、幼稚園だけでなく、初等から大学・OBの方々など、学園として盛り上がる貴重な経験でしたので、改めてこの環境が素晴らしいものだと感じました。大好きなアフタースクールでは、英語が話せる嬉しさや、他国について学んだことを嬉しそうに話してくれます。造形の授業では、最初は恥ずかしがっていた様ですが、自分の感性を作品として表現する楽しさを学ぶことができ、大好きな授業となっております。様々な分野の方をお招きしての特別授業なども魅力的で、充実した日々を楽しく過ごすことが出来ました。間もなく100周年を迎えられるという伝統ある幼稚園の保護者であるということに理解を深め、保護者力を高めながら、子どもとの関わりを考え、三位一体となって、来年度の1年間も大切に過ごしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。
年中	保護者として、他の学年も含め教員が休職してしまう事に学園は危機感をもっているとは思えません。職場のメンタルヘルスについてしっかり対応していないのではないかと思います。特に教育現場での教員のメンタルヘルス問題はどこの学校においても起きている問題だともいいますが、産業医と共にしっかり対策をしていかないと有能な人材が来なくなると思います。これは幼稚園だけでなく学園全体で取り組んでいただきたい事項です。参考までに、千葉市教育委員会などは専門の会社と組んで対策をはじめています。

年少	季節感や伝統文化を感じられるイベントを数多く設け、子供の情操や達成感を導き出そうとする園の不断の試みには、日頃、感謝と感動がなく、保護者自身も大いに楽しませてもらっているところである。しかし、そうしたハレ(非日常的イベント)の舞台で見せる子供の姿とは、得てしてよそゆきの、いわゆる演技的なものでしかなく、子供本来の個性や姿を投影したものとは言い難い。かたやケ(普段の園生活)における、子供の様子を保護者がじかに見られる機会は現状ほとんどないと言ってよいだろう。保護者が本当に知りたいもの・観たい姿(お友達や先生との関わり方・対人コミュニケーション、言葉づかい・言葉の発達度、マナー・所作、優しさ・思いやり、共感力・忍耐力・やり遂げる力等)とは、まさにそうした、日常の園生活にこそ宿っているものであり、そこをいかに負荷なく自然体で保護者に開示していけるか?が、園に残された今後の課題であると思料する。【理数系教育】園における理数系教育の一環として、ペッパー君の会を催してもらい、子供自身もだいふ触発されたようである。ロボットや宇宙、ゲームやプログラミングといった分野は、今後の基幹産業に化けるかもしれないので、今後ぜひ、興味を唆り、本物に触れる機会を多く設けて欲しい。(もっとも、そうした機会作りを先生や企業の広報部主任にするのではなく、保護者自らが自発的に外部専門機関やその道のプロに働きかけて招聘していくことが重要)【英語教育】園児に対する国際教育については、よい塩梅でやっていただいていると思う。日本語ですらまだまだの幼児に対して無理に英語を詰め込むようなことはせず、まずは、外国人や外国語に対して抵抗なくフランクに接することができるようにと、お歌などを通じた取り組みを行っている点については感心させられている。 【自然や地域との共生】自然との共生および自然を生かした遊びについては、最大限よくやっていただいていると思う。今年の冬は子供に大自然の中でスキーを体験させたが、運動能力の養成や自然との共生については、園に期待する以上に、家庭での役割が大きいものと感じている。【保護者力とマナー】保護者が園に期待するものがあるように、園が保護者に期待するマナーや努力は当然にあってしかるべきであり、そうした指標は遠慮なく園から発信して良いと思う。また、保護者のマナーに起因して過去にトラブルになったケースは、園がよくご存知だと思うので、それらをケーススタディとしてまとめ、事が起こる前にあらかじめ保護者との間で情報共有しておくのが良いと思う。以上、ご縁あって成城幼稚園に入園させていただいたが、入園したきっかけも、また、園生活に対する高い満足度も、園長先生の存在なしには語ることが出来ない。近く退任される園長先生に対しては、この場をお借りして感謝申し上げたい。以上
年少	先生方に手厚く保育をしていただいております。石川先生の優しいことばの選び方が心に響いて、日々の親子の関わりにも役立たせていただいております。宇田先生とのお集まりもととてもほっこりして笑顔になれます。いつもどうもありがとうございます。
年少	保護者の職業や専門知識をいかした課外授業は本物に触れる良い機会を与えてくれ、保護者も子供達の園生活の成長に協力できる機会でもあり、保護者として子供達の為に何かできることはないか?と考えさせられました。成城幼稚園の学びを実感し感銘を受けました。三位一体の気持ちを大切に子供達の成長を見守れる幼稚園だと思います。1学期に先生方がバタバタ休職させていき、驚きと不安になりました。またその事と引き換えに、子供達の繊細さ、担任の先生の存在の重要性にも気づくことができたとも思っています。
年少	子供達の個性を尊重していただき伸び伸びとした子供達の笑顔が伺える保育に感謝しています。

年少	1学期は年少の先生のお休みが続き、子どもたちへの影響が心配でしたが、2学期以降は体制が整い安心しました。今やどの企業・組織も人材不足ではあるものの、今後も突発的に先生がお休みされることは起こりうると思いますので、そのような時にも他の先生がバックアップできるような体制の整備をお願いできれば幸いです。
年少	たいこばしくん通信のような視点で子供を見守っていただくことを期待して入園しましたが、まさにそういった視点で日々見守っていることが、先生方とのコミュニケーションから伝わっており、大変感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。
年少	担任の不在が続き残念です。
年少	前回こちらの欄を記載せずに誤って提出したため、再提出いたします。1点目:園児一人一人へ向き合う先生方の姿勢は、とても素晴らしく、安全して子供を預けられる環境と感じております。とくに担任の先生以外のサポートしてくださる先生方も、同じようなレベルを維持していることにはとても驚きました。しっかり子供たちを見てくださっていることが感じられ、親としては日々感謝しております。2点目:登園バッグをリュックタイプにしてはいかがでしょうか?理由:年少に肩掛けは歩きづらく、負担がある。布製や斜めがけの形状のため、中のものが整理して入れられない、お弁当も真っ直ぐ入れることは不可能なため、ぐちゃぐちゃになってしまうなどメリットが感じられない。3点目:遠足などは三学年一緒ではなく、年齢に応じてそれぞれ実施するのはいかがでしょうか?理由:人数が多いため、移動や待ち時間が長く、年少には負担が多い。また、全学年ができるような内容のするため、上の学年には物足りないのではと感じた。分ける事でもっと時間を有効に使い、年齢ごとに様々な体験ができる遠足にできるのではないのでしょうか。
年少	学年の違う保護者同士も挨拶を交わし、明るい気持ちで朝から登園させていただいております。保育中もきちんとカリキュラムがあり、様々な経験をさせていただけることに感謝しております。個人面談も30～45分と長い時間をかけていただき、子どものことをきちんと見ていただけて的確なアドバイスをいただくことが出来て安心して通うことが出来る幼稚園だと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
年少	いつもお世話になっております。先生方の離職が続かれています。いつも遅くまで園でお仕事されてる先生方が多く、頭が下がる思いです。先生方の御待遇や、勤務時間等が充分なものであることを、保護者の多くが望んでいるように思います。いち保護者としても、そのために出来ることがあればお伝え頂きたい思いです。
年少	いつもお世話になり、ありがとうございます。息子は幼稚園が大好きでお友達もでき、貴園にご縁を頂けて改めて良かったなと思っております。初めての幼稚園生活でやっと慣れたなと思った頃、先生が途中で交代され息子も不安定になったりと大変な事もありましたが、今は落ち着いてクラスにも入れるようになり安心してお任せできるようになりました。お弁当も月に一度皆んなと同じ物を食べるという食育はとても良いなと思っております。お友達が食べているから食べてみようという良い影響がありとても助かっています。今後もっとお楽しみランチ増える事を願っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

年少	先生方は子どもの長所を伸ばし、いつも丁寧に接してくださるおかげで、毎日楽しく通うことが出来、子どもの成長を感じております。保護者に対しても、幼稚園での様子を細かく伝えて下さるので安心です。保護者会等で、園長先生より親として我が子にどの様に関われば良いのか、とても勉強になる興味深いお話をしていただきました。園を離れられても、日常の子どもとの関わり方について、外部でご講演いただく機会を設けていただければ、是非伺いたいと思っております。
年少	ドーナツ池までのお散歩など、歩いて体を動かすような活動が増えたら良いかなと思います。
年少	三位一体としていいる中で、幼稚園の内情は話せない事もあるかと思いますが先生方の何人かが居なくなってしまった時、不安でいっぱいだったので、その辺りはもう少し寄り添って頂けたら保護者も安心したかと思ひます。ですが、少ない先生方だったにも関わらず、子供はとても幼稚園が好きですし楽しく過ごさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。あと、2年と数ヶ月ですがこれからもよろしくお願い致します。
年少	親の出番も多く、(クリスマス会やこれから行われる音楽祭など。)子供の成長や子供達の幼稚園での姿を見る事ができてとても嬉しく思っています。行事が多いと大変だな。と思う時もありますが、見に行くとその都度、いつも感動致します。
年少	クリスマス会、そして今週末の音楽会などなど、我が子だけではなくお友だちも含めて今この瞬間しか見られない貴重な機会を設けていただきまして誠に感謝しております。とても楽しみにしています。
年少	いつも目の行き届いた教育をしていただきありがとうございます。子供達にとってこれ以上の環境はないと思ひております。これからも、たくさん本物に触れ、自然の中でのびのびと成城幼稚園で育っていくことを楽しみにしています。
年少	コロナ前より行事が減っているのが悲しく、行事を前のように戻してほしい。
年少	今年度数名の先生方が、突然の休職をされています。その中で、新しい担任を配置できたクラスとそうでないクラスがあるようです。定まった担任がいない状況での教育活動は幼児自身の不安や負担が大ききと思ひます。幼稚園、保育園の人材確保が難しい状況になっていることは承知しておりますが、そのような状況のなかでも何とかしなければいけないのではないのでしょうか。今年度担任が定まらないクラスのお子さん、保護者の気持ちを園長先生はどのようにお考えなのでしょう。また、コロナ前に行っていた行事の復活の話をして「人が足りないの」と園長先生をはじめ、先生方の中には仰られる方がいますが、それですむことでしょうか。かりに人が足りないのであっても、保護者への説明をもう少し丁寧にしていきたいです。そして、今年度中に下記のことを保護者に園長先生、学園の本部(できましたら学園長先生)の方にご説明いただきたいです。先生方がかくも多く当然の休職をされた状況を園としてどのようにお考えなのか。そして、来年度このようなことが起きないよう、幼稚園、また成城学園としてどのような対応をなさるのか(例えば教職員全員への学園関係者によるヒアリング、人材育成研修会など)先生方個人の理由もあるかとは思ひますが、こうも大勢の先生が突然の休職をされると、幼稚園の人材運営に問題があるのではと思ひてしまいます。成城学園としてしっかりと現状を把握し、ご説明をいただきたいです。

※ 年少最後の2つの意見について、事実と異なる理解のもとに述べられている意見と考えられるため、園長として①②の説明を加えます。

- | | |
|---|--|
| ① | <p>今年度5月からコロナ対応の規制が緩和され、幼稚園として「コロナ前より行事が減っている」ということはありません。まだ、多少形態が変則に（秋の遠足も、春の遠足の様に年中・年長も全員保護者と一緒等）なっていることはありますが実施しています。コロナ前に比べて実施していない行事は「餅つき」のみで、これに関して、実施を取りやめた理由は、2学期「学期末のお知らせ」で、「全国で学校行事等におけるもちつきでの食中毒感染症が報道されるようになり、自治体によっては中止を要請したり、自粛したりする団体も出てきてい」ること「長年実施してきた行事ではありますが、食中毒（ノロウイルス）感染症リスク等衛生面での課題が無いわけではなく、職員会議で慎重に審議し残念ながら中止という判断をすることにしました」と伝えてあります。また、例年、文化祭で「餅つき」を実施していた初等学校も同じ理由で取りやめています。</p> |
| ② | <p>「当初の担任休職後に、新しい担任を配置できていないクラスがある」という表現になっていますが、これは事実と異なります。毎日送迎をしていらっしゃる年少の保護者の方が、どうしてこの様な理解をしてしまわれたのか、疑問を感じております。2学期以降、両クラスともに、定まった担任を配置しています。また「コロナ前に行っていた行事の復活の話をして『人が足りないの』と園長先生をはじめ、先生方の中には仰られる方がいます」との記述もありますが、上記①で記載したように、コロナ前に行っていた行事で今年度実施していない行事はありません（別の理由で中止の「餅つき」を除く）。したがって、実施していない行事がないにもかかわらず、園長の私だけでなく他の教員も『人が足りないの』という理由を持ち出すはずもないと考えます。実際、職員会議で確認をしましたが、誰もそのような発言をした覚えがないとのことでした。</p> |

学校関係者評価委員会 報告

(2023 年度学校評価アンケート 幼稚園の自己評価説明を受けて)

アンケート結果および、自己評価委員会の報告を受けて、5月29日「学校関係者評価委員会」を開催した。アンケートは質問の項目数を昨年度の31から23に絞って実施されており、より幼稚園の活動に即したものとなったが、いまだ回答しにくい、判断材料の少ない質問もいくつか含まれており、その点では、次年度以降のアンケートの改善が望まれる部分が残った。評価については、ほとんどの項目で満足していることを伺わせる回答が多く、成城幼稚園が園児のことを第一に考え、園児たちの成長にとって有効かつ幅広い活動をおこなっていることは十分に確認されたと考えられる。また、コロナ感染症5類への移行を受け、徐々に保護者が行事の参観等、園の活動にかかわることが再開されたことによって、より幼稚園の教育への理解も進んだと思われる。

アンケート結果の満足度に沿って自己評価委員会が行った分類に合わせ、特徴をまとめておくこととする。

【高い満足度を得られている設問について】

①とてもそう思う ②ややそう思う を合わせて9割以上の保護者から、肯定的な回答が得られた項目が7つあった。内容は、Q.5.19のような園の環境や施設面、Q.8.9.16のような行事を通しての文化体験や自己表現、Q.14のような園児どうしの関係の3つに大別されるが、それぞれが充実したものとして認められていると考えられる。施設面では豊かな自然環境を提供している園庭や光を存分に取り入れ快適に過ごせる園舎の役割が大きい。また、七夕・ひな祭り・クリスマス会など文化を体験する行事、音楽会や演劇などの芸術分野のみならず小田急の協力のもと行われている安全教室など本物に触れる機会、また学園音楽祭や運動会での発表など、園の活動の多くが支持されていると考えてよいだろう。さらに園児どうしが仲良く楽しく幼稚園生活を送っていることも間違いない。そして、それらを大きくまとめているのが、Q.1.の「学ぶ意欲を引き出すような教育・保育」ということになるだろう。この評価が高かったことは重要だ。

【相対的に満足と捉えている保護者が多かった設問について】

①とてもそう思う ②ややそう思う を合わせて8割以上の保護者から、肯定的な回答が得られた項目が13あった。Q.10.12.13は教育の内容についてだが、国際教育、情操・教養教育については学園としても重視している分野であり、高い評価を得たことは正しい方向性で活動が行われていると見てよいだろう。英語教育はネイティブの教員の力量に負うところが大きいが、その点では大変優秀な人材を得ることができていることも良い評価に繋がったと思われる。前項目の行事の評価と連動して、情操面での活動も支持されていると考えられる。Q.11.15.17は教員と保護者との関係性の構築や情報の共有という部分だが、この点でも高い評価を得られたことは、保護者と教員とが協力し合って園児たちの成長を見守っていくことができていると言えよう。毎日の降園時に担任から保護者にその日のできごとについて共有する時間を設けていることの重要性を改めて感じる。前項目及び本項目でここまで述べてきたことの大きなまとめてして、Q.23「本園の良さを学外の人に伝えたい」という設問が一定の支持を得たこと

は、園の未来にとって大きい。今後も成城幼稚園が長く愛されるためには、口コミでの評判も大変重要だからである。Q.20.22は保護者のマナーという点だが、園側からの発信と保護者自身の自己評価という点では十分にできていると見えるが、次項目で述べるように、残念ながら客観的にどう見えているかは別であるのかもしれない。

【相対的に見て満足していない保護者が多い設問について】

前項目からの流れで言うとQ.21「保護者全体のマナーが向上した」という設問に対しては、③あまりそう思わない22% ④そう思わない5%と厳しい評価がなされている。送迎の際の迷惑駐車であったり、上履きを持参しない保護者がいたりなどが、そういう評価に繋がったと思われる。園からのマナーについての発信は言葉としては受け取っているものの、実感できていない保護者がいるということなのかもしれない。特にコロナ禍によって、保護者どうしが切り離され、上の学年から下の学年への保護者間での文化が伝わりにくかったことも一因だと思われる。今後は父母の会での情報共有も必要に応じて行っていくことで改善されていくのではないかな。ただし役員などの保護者が風紀委員のようになることを心配する声も委員会ではあげられていた。Q.4「理数系教育は十分に行われている」については③あまりそう思わない35% ④そう思わない8%と最も低い評価となった。確かに足し算や引き算などを教育に取りいれている他園などの活動とは違い、理数系の活動に特化したプログラムは少ない。しかし理数系の学力のベースとなる観察力を高める教育は、植物の栽培やサツマイモ掘りなどの活動だけでなく、日々の遊びなどを通して十分になされている。また例えば自由遊びで使ったソフト積み木は最後に園児自身が片付けるが、いろいろな形の積み木を元の箱にピッタリ収めるためにはさまざまな試行錯誤を繰り返す必要があり、園児の論理的思考を高める場となっている。そういう気づきにくい、ひとつひとつは小さいが重要な体験がたくさんある。しかしそのようなことは、なかなか保護者の知るところとはならず、前置きのところで書いたように、保護者には判断材料がなかったのではないかと意見も委員会ではあがった。保護者は、園での自分の子供を見てみたいという願望があるので、それを生かせば活動をよりアピールすることができるようではないか。Q.6「ICT機器を適切に活用し保育を行っている」は③26%、④8%という結果になった。成城幼稚園としては本物と触れ合う生の体験を重視しており、確かにICT機器を使うのは実物を見せられないときや、ダンスをするときのお手本を示すときなど限定的であることは確かだが、必要に応じて機器をすぐに使えるよう教員のスキルアップは継続すべきであろう。

今後も園児の成長のために、保護者と教員とが協力し合って、より良い成城幼稚園を作っていってほしい。

以上